

ふじみの

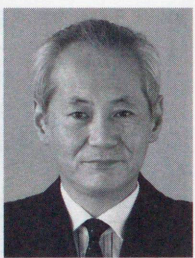


No.51
東京農大畜友会



巻頭言

畜産学科長 半澤 惠



畜友会の機関誌「ふじみの」第五十一号の発刊に当たりご挨拶申し上げます。卒業生の皆さん、おめでとうございます。ここで得た宝を、明日からの人生に大いに生かして下さい。立場が変わり、周りの見る目が変わったとしても、今日の皆さんは昨日の皆さんと繋がっています。安易に答えを求めず、いつも今を大切にして下さい。そして笑顔を忘れずに、自分の夢に向かって堂々と胸を張って生きてください。皆さんの活躍を心から祈念しています。そして、たまには帰巣本能を発揮して厚木キャンパスに訪ねてきてください。畜友会はいつでも皆さんの帰りを待っています。

在校生の皆さんは、この節目の機会にこれまでの大学生活を振り返り、自分の将来設計を見直し、目指すゴールを再確認した上で、勉強、課外活動、様々なことに思い切ってチャレンジしてください。特に収穫祭に中心メンバーとして携わっている面々は、着々と成果が挙がりつつある昨今、みんなの力を集約して目標に挑戦してください。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。心よりお祝い致します。本誌「ふじみの」には、先生方、学生諸氏による寄稿文に加えて研究室、収穫祭など、畜産学科に関する様々な情報が満載されています。畜友会は、畜産学科の学生を正会員、大学院生や教職員を特別会員とする親睦団体で、新入生歓迎会から、収穫祭・体育祭、卒業生送別会まで、様々な企画で大学生活を楽しく充実したものにしてくれます。皆さんも畜友会の活動にも積極的に参加し、生涯の仲間をつくり、皆さんの貴重な体験をしてください。

大学は、受け身になって授業を受けて優秀な成績を治めることが目的ではありません。専門分野に関する知識・技能の修得に努めるのはもちろんのこと、社会人としての目標を見出し、必要な素養を養い、学び方、考え方を確立し、自分で課題を発見し、それを解決する力や、新たな価値を創造する力を身につける時間と場を提供してくれます。積極的な態度こそが、真に充実した楽しいキャンパスライフにつながります。4年後の自分に期待できるような充実した時をすごされることを祈念します。

結びに、本誌発刊にあたって、快くご寄稿下さった皆さま、並びに編集に携わった畜友会の役員諸氏および関係各位に心より感謝申し上げます。

平成二十七年三月吉日

ふじみの発刊にあたり

畜友会委員長 福王寺嶺平



春霞の漂う季節となり、桃の花が目鮮やかな今日この頃、今年も「ふじみの」第51号を発刊することとなりました。

本誌には、畜産学科の先生及び、学生の手稿や昨年度の事業報告を記載しています。

昨年は、地震により被害を受けた学生会館の取り壊しによる引越など、慌ただしい一年だったと思います。しかし、その中でも学生一人一人の夢や希望、努力や不安が感じられる文章が記載されています。

是非、隅々までご覧いただけたら幸いです。

ふじみの
目次

巻頭言

ふじみの発刊にあたり

畜産学科長 半澤 恵 1
畜友会委員長 福王寺嶺平 3

同窓会だより

「ふじみの」第51号発行によせて

畜産学科同窓会会長 栗原 良雄 6

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会

便り 畜産振興会会長 半澤 恵 7

研究室だより

家畜繁殖学研究室 9
家畜育種学研究室 12
家畜生理学研究室 15
家畜飼養学研究室 18
畜産物利用学研究室 21
家畜衛生学研究室 23
畜産マネジメント研究室 26

ふじみの寄稿原稿(教員)

農大という機会 白砂 孔明 28
畜産学科に戻ってきて 平野 貴 29

集う学友

様々な人の輪 4年 北山 岳 30
二年間の収穫 3年 菅原礼太郎 31
大学生生活と部活について 2年 新井 瑛理 32
充実した大学生生活 1年 松永 正恵 33

畜友会だより

平成二十六年畜友会活動報告 34
平成二十五年畜友会決算報告 35
平成二十五年年度収穫祭特別会計収支決算報告 36
平成二十六年畜友会予算 37
平成二十六年収穫祭特別会計予算 38
平成二十六年度畜友会役員 39
第十五回厚木キャンパス収穫祭 40
第一二三回体育祭事業報告及び結果報告 48
東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則 40

第十五回厚木キャンパス収穫祭・
第一二三回体育祭各部門委員長より

お疲れだったね

二階から目薬 統一本部委員長 3年 福王寺嶺平 54

充実感でいっぱいだった宣伝隊 特別企画委員長 3年 大矢 遼介 55

紹介しよう、神輿部門 宣伝隊隊長 3年 尾内 晶 56

畜友会・体育祭部門に入って 神輿隊長 3年 中里 健人 57

三年間の締めくくり 体育祭委員長 3年 長田 小菊 58

僕らの研究棟アート 壇装飾委員長 3年 茂田井瑞生 59

家畜苑 装飾委員長 3年 鳥越 雄斗 60

家畜苑苑長 3年 大橋 右 61

編集後記 編集委員長 3年 城詰 完奈 62

同窓会だより



「ふじみの」第51号発行によせて

東京農業大学農学部畜産学科同窓会
会長 栗原良雄

「ふじみの」第51号の発行おめでとうございます。畜友会会員の皆様久しぶりです。この度、渡邊誠喜前会長の後を受けて会長になりました栗原良雄です。

私は、平成19年3月に東京農業大学（畜産学科家畜飼養学研究室所属）を定年退職してからすでに7年になります。これからは皆さんと同窓会という立場でお会いできることを楽しみにしております。

すでに50年以上前のことになりましたが、畜産学科が千葉県茂原市にありました茂原校舎から世田谷キャンパスに移転してまもなくの頃、私が大学2・3年生の時、収穫祭に畜友会の役員の一員として当時グラウンドで行われた野外劇に出たことや畜産関係の施設見学を行ったことなど懐かしく思い出されました。その当時の記事が載っている「ふじみの」が確か3号ではなかったかと思えます。まだ私の

ところに残っているはずですよ。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございませう。あなた方はこれから東京農業大学農学部畜産学科卒業生（同窓生）として社会で活躍されてくわけです。おそらく卒業されたお一人お一人はこれからの人生に大きな夢を持って社会に巣立って行かれたことと思います。その夢を実現するためには多くの苦難が待ち受けておられることと思いますが、その苦難を乗り越えられてその夢を実現するために頑張ってください。これからの活躍を期待しております。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。あなた方は縁あって畜産学科に入学されました。新入生並びに在校生の皆さんは、これからの日本あるいは世界を担っていく大事な人材です。将来どのような分野で活躍するかわかりませんが、一人ひとりその使命を持っています。これは大学時代を無為に過ごすか有為に過ごすかによって大きく分かれてきます。どうかこれからの学生生活で学識と英知をしつかりと身に着けるよう頑張ってください。大いに期待をしています。

さらに、大学時代に得た友人は一生の宝です。どうか信頼できる多くの友人を作ってください。

大学は、あなた方をこれからの社会を担っていく人材として育成し社会に送り出す使命があります。その人材を育てていく畜産学科やあなた方をサポートしていくのが同窓会ではないかと思えます。

最後になりましたが、畜友会は学科唯一の学生団体です。役員の皆さんはいろいろ苦勞なことがあると思いますが、畜産学科学生のまとめ役として頑張ってください。大いに期待をしています。

平成二十六年十二月六日

畜産振興会



東京農業大学畜産振興会 便り

東京農業大学畜産振興会
会長 半澤 恵

東京農業大学畜産振興会が発足して、早二十四年が経ち「ふじみの」に便りを執筆する時期となりました。そこで改めて本会の発足の経緯やこれまでに実施した事業について紹介します。

本会は東京農業大学農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生の教育・研究の向上に資するために、平成三年三月二十三日に学校法人東京農業大学の認可を得て設立されました。会の運営には学内外の卒業生ならびに学科教員を中心に本会の役員として理事、監事が選任され、理事会で必要事項が審議決定され、運営にあたっています。一方、役員以外の評議員によって評議員会を組織し、理事会での審議・決定内容について承認を得ること

になっています。

具体的な事業内容として、平成二十七年一月現在、奨学生証を毎年二〜四年次生、昨年度より各学年二名ずつ計六名に改訂、延べ七十九名採用、優秀卒業論文賞を毎年一名、計二十四名に授与、姉妹校短期留学生並びに渡米農業実習生への交通費の一部を過去八名に支給、さらに関連学会誌に学術論文を掲載・発表した学生、または学会で口頭発表した学生、延べ二百七十五名を奨学しています。また、経済的に困窮した学生への奨学金の一時貸与も行っています。

平成九年四月にここ厚木キャンパスが開学し、畜産学科が移転しましたが、本年三月には厚木キャンパス育ちの第十四期の学科学生ならびに第十二期の博士前期課程大学院生、第九期の博士課程後期大学院生が卒業します。平成二十七年年度には新学生会館の落成を控え、食堂前広場の整備、コンビニエンスストアの導入など、キャンパスの整備も徐々にすすんでおります。しかし移転から二年間は、教員が世田谷キャンパスにおり、厚木キャンパスは学生のみという状態でした。そこで本会では、学生への教材提供の意味から平成九年には乳用子牛雌一頭、同十年にはリヤマ雌一頭、雄一頭、そして同十一年には黒毛和種子牛一頭を寄贈しました。これらの家畜はいずれも、厚木キャンパスでお披露目の後、本学富士畜産農場に繋養されました。リヤマは毎年収穫祭の折に畜産学科統一本部で実施する家畜苑の時に人気者になっています。黒毛和牛は優秀な二世も誕生するなど、それぞれ実習・実験の材料として活用されて

います。

また、これら諸事業の成果を取り纏めたものを平成十年より毎年振興会誌として発行しており、こちらでも十七号を数えるまでになりました。

本会設立の契機は平成二年十二月一日、不慮の交通事故により残念にも尊い一命をなくされた江渡宗徳君（当時畜産学科二年在学中）のご両親から寄付を賜った原資を基金として設立されましたが、その後、逐次拡大してきた事業を遂行するため、

- 一 東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金（設立時）
- 二 賛助会員会費（受領実績…延べ八百六十四名）
- 三 一般寄付金（受領実績…延べ百十一名）

などを資産に加え賄われています。より一層の充実した事業展開のためには更なる原資が必要です。

卒業生には本会の趣旨をご理解いただき、後輩学生の育成のため是非ご支援を賜りたくお願いいたします。特に本会から表彰を受けた方々は本会の活動を心に留めおいて下さい。

在学生諸君には本会の目的に叶う事象が生じた場合には本会を有効に活用され、充実した学生生活を送られるよう祈念し、振興会便りとします。

研究室だより

家畜繁殖学研究室

家畜繁殖学研究室は桑山岳人教授、岩田尚孝教授、白砂孔明助教のご指導のもと、大学院生六名、四年生三十一人、三年生三十二名で構成され、生徒同士で協力し合いながら日々の研究に取り組んでいます。

当研究室では、家畜（ウシ、ブタ、ニワトリ、ウズラ）を利用して生殖生理のメカニズムを追求し、繁殖効率の改善に取り組んでいます。具体的には、生殖に関わる内分泌機構の解明、動物胚の生産や操作、細胞、精子、人工授精、受精卵移植の繁殖技術の確立を目指しています。

三年生は、生殖学の基礎的な知識、実験方法を身に付けると共に、大学院生や四年生の研究活動を補助しながら興味のある研究分野について理解を深め、研究テーマを決定します。

当研究室では国内や海外で行われる学会にも積極的に参加し、その成果を論文として関連学会に発表しています。

研究室の主な年間行事は、新入室員歓迎会（四月）、論文発表会（年数回）、収穫祭の文化芸術展での研究発表、スポーツ大会（年二回）、研修旅行、卒業生送別会等があります。

繁殖学研究室は日々の研究、勉強と楽しい行事を両立しながら充実した研究室生活を送っています。

氏名	卒業論文題目	指導 教員
阿部 崇人	ウシ卵子の体外成熟培地へのレスベラトロールの添加効果とトナー牛の肝臓状態の関係	岩田 白砂
池内 元希	繁殖母牛のBCS (body condition score) と繁殖効率の関連性	岩田 白砂
伊藤 直輝	体外成熟培地中のAMPKの活性化がウシ卵子の培養成績とミトコンドリアに及ぼす影響	岩田 白砂
大川 莉歩	卵子顆粒層細胞複合体の再凝集がブタ初期胞状卵由来卵子の体外発育に及ぼす影響	岩田 白砂
小笠 駿	SIRT1発現とブタ卵子内ミトコンドリア調整機構	岩田 白砂
岡田 ゆう	顆粒層細胞の追加が加齢ウシ卵子顆粒層細胞複合体の体外発育に及ぼす影響	岩田 白砂
川崎 洋平	ベアリングが雄ウズラのコレチコステロン分泌反応に及ぼす影響	桑山 白砂
北山 岳	養豚経営者から学ぶこれからの養豚業	岩田 白砂

小泉 貴弘 低吸着培養皿がウシ初期胞状卵胞に及ぼす影響 岩田 白砂

小林 織子 日本国内の生殖関連研究機関における研究内容の調査 岩田 白砂

小松 祥梧 岐阜地鶏と白色レグホーンの交配により得られた個体の成長について 岩田 白砂

杉山 都 若齢及び加齢ウシ卵子の体外発育に対するレスベラトロール添加効果 岩田 白砂

田中 葉月 老齢・若齢ウシ由来顆粒層細胞のミトコンドリア機能にレスベラトロールの及ぼす影響 岩田 白砂

棚原 憲佑 繁殖母牛のBCS (Body condition score) と繁殖効率の関連性 岩田 白砂

谷 慎太郎 野生鳥類の生息を支える生態系に関する研究 (台風の影響) (流域別調査) 桑山 白砂

田上 詩織 顆粒層細胞の追加が若齢ウシ卵子-顆粒層細胞合体の体外発育に及ぼす影響 岩田 白砂

田邨 美咲 プタ卵子におけるミトコンドリアの障害とその後とその後の動態 岩田 白砂

津田麻美湖 雄ホロホロチョウと雌ニワトリ雑種の性腺刺激ホルモンに対する精巢の反応性 桑山 白砂

東本 隼人 SIRT1発現とプタ卵子内ミトコンドリア調整機構 桑山 白砂

西尾龍之介 兜虫の人工授精に対する基礎技術 岩田 白砂

原 梨沙子 SIRT1発現とプタ卵子内ミトコンドリア調整機構 岩田 白砂

平澤 怜子 培養基質の硬さがプタ初期胞状卵胞卵子の体外発育に及ぼす影響 桑山 白砂

深谷 扱馬 兜虫の人工授精に対する基礎技術 岩田 白砂

藤岡 寿文 SIRT1発現とプタ卵子内ミトコンドリア調整機構 岩田 白砂

増山 敦則 採卵鶏単飼ゲージでの飼育が岐阜地鶏の抱卵斑形成に及ぼす影響 岩田 白砂

嶺井 海輝 野生鳥類の生息を支える生態系に関する研究 (台風の影響) (流域別調査) 桑山 白砂

宗像 祥久 プタ卵子体外成熟培養の培養基質の性質と卵子発生能力の関係 桑山 白砂

村山 美咲 鳥類の雑種作出に関する研究 岩田 白砂

谷津 恵 プタ卵子におけるミトコンドリアの障害とその後の動態 岩田 白砂

柳町 洋美 ウズラの卵巣除去が拘束ストレスによる cortisol コルチコステロン分泌反応に及ぼす影響 桑山 白砂

吉越 崇裕 加齢ウシ卵子の体外成熟培地へのレスベラトロールの添加がミトコンドリアに及ぼす影響 岩田 白砂

家畜育種学研究室

家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、育種学、分子生物学的見地から広範囲にわたる研究活動が実施されています。

当研究室では、古川力教授をはじめ、野村こう准教授、高橋幸水助教の指導の下、大学院生4名、4年生33名、3年生29名によって構成され、室員各自の自覚と相互の協力によりそれぞれの目標に向かって日々研究が続けられています。主な研究テーマとしては家畜(ウシ・スイギュウ・ヒツジ・ブタ・ヤギ)を供試動物として、マイクロサテライトマーカーやミトコンドリアDNA 遺伝子情報による連鎖地図作製、系統遺伝学的研究や、統計遺伝学に関する研究などが行われています。

研究室では一年を通して新入室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、特別講演会、卒業論文発表会などが行われ、室員は実験動物の管理、毎週行われているゼミ、定例室員会、それぞれのテーマに即した研究などを日々行っています。さらに研究活動は学内にとどまらず、先生方や院生により学会発表などが精力的に行われています。

氏名 卒業論文題目 指導教員

荒瀬 泰輔 水牛血清アルブミン遺伝子の多型解析 高橋 古川

石田 真稔 和牛生産農家における産肉成績に及ぼす要因の解析 古川

井上 七海 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究 高橋 古川

小倉 弘之 ミトコンドリアDNA全塩基配列情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究 高橋 古川

甲斐 瞳 マイクロサテライトマーカーを用いたヤギの連鎖地図作製に関する研究 野村

川名亜沙実 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究 野村 古川

小坂日路子 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析 高橋 古川

越野未有来 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究 高橋 古川

角田なるみ 神津牧場におけるジャージー種の繁殖構造の解析 古川

永島 五月 神津牧場におけるジャージー種の繁殖構造の解析 古川

中村 生 日本におけるマンクスロフタン種の遺伝的多様性 古川

中村 優里 神津牧場におけるジャージー種の繁殖構造の解析 古川

名久井香澄 ニホンイノシシへのブタ遺伝子流入に関する研究 野村 古川

野村里香子 ミトコンドリアDNA全塩基配列情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究 高橋 古川

長谷川綾子 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究 野村 古川

花野 冬菜 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究 野村 古川

久本 祐輔 日本におけるマンクスロフタン種の遺伝的多様性 高橋 古川

坂野 辰郎 ミトコンドリアDNA全塩基配列情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究 高橋 古川

佐藤 涼平 ミトコンドリアDNA全塩基配列情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究 高橋 古川

柴田 貫詞 コンピュータ・シミュレーションを用いた豚選抜法の研究 野村 古川

息才 明子 ヤギの周年繁殖関連遺伝子の多型解析 野村 古川

高田 直也 ミトコンドリアDNA全塩基配列情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究 高橋 古川

高原 美咲 日本におけるマンクスロフタン種の遺伝的多様性 古川

谷脇 由季 ニホンイノシシへのブタ遺伝子流入に関する研究 野村 古川

田原 岳 マイクロサテライトマーカーを用いたヤギ小集団における近交度評価 古川

本田 恵莉	ニホンイノシシへのブタ遺伝子流入に関する研究	古野村
松岡 芳明	ヤギの周年繁殖関連遺伝子の多型解析	古野村
松本 峻	神津牧場におけるジャージー種の繁殖構造の解析	古川
宮部和圭菜	マイクロサテライトマーカーを用いたヤギ小集団における近交度評価	古川
村上まりこ	日本におけるマンクスロフタン種の遺伝的多様性	古川
毛利 拓哉	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくブタ及びイノシシの系統遺伝学的研究	野村 古川
山根 紗也	神津牧場におけるジャージー種の繁殖構造の解析	古川
涌井 駿希	水牛血清アルブミン遺伝子の多型解析	高橋 古川

家畜生理学研究室

家畜生理学研究室は半澤恵教授をはじめ、平野貴准教授、原ひろみ助教のご指導のもと、大学院生5名、学部4年次生33名、3年次生32名で構成されています。

本研究室では家畜・家禽に発現する生理的な特徴やその生理機構の遺伝的支配に関する研究をしています。その研究対象の動物により①ニホンウズラに関する研究、②ウマに関する研究、③ウシに関する研究に分けられています。学年毎の活動として、3年次生は生理学に関する基礎的な知識、技術を身につけるために講義、ゼミ、実験実習、二泊三日の富士農場実習を行い、日常的な実験動物の管理、院生、学部4年生の卒業論文の補助とともに実験別の知識を得るために夏休み直前から課題別実験を行います。4年次生はこれまで得た知識、技術をもって各々が興味を持った研究を引き継ぎ、あるいは新規のテーマを先生との議論により決定し、卒業論文に取組んでいます。院生は各々の学位論文のテーマで日夜研究に取り組んでいます。年間の主な行事は新入室員歓迎会、卒業生との交流会、収穫祭模擬店、研修旅行、課題別実験成果発表会、卒業論文発表会、卒業生歓送会、年二回の納会、畜舎大掃除、週一回のゼミナールがあります。

氏名	卒業論文題目	指導員
足立 佳寛	ニホンウズラCjBTN1~CjBTN2間領域のDNA多型と組換え領域の検証	半澤
岩間 美幸	ニホンウズラTLR15遺伝子の5'UTRの塩基配列多型の検索	原
畝本 雄貴	ニホンウズラCjBTN1の新規対立遺伝子の検索とDNAタイピング	半澤
小澤 宏太	ニホンウズラCD1垂領域内の組換えスポットの検索	半澤 平野
恩田 佳範	ニホンウズラCjMxの対立遺伝子間のmRNA発現量の比較	半澤
角間崎泰斗	寒天培地培養法によるニホンウズラ腸内細菌叢の調査	半澤 原
木村菜奈子	植物性凝集素を用いたニホンウズラ赤血球凝集原に関する研究	半澤 原
酒井 健吾	ニホンウズラCjBTN1とCjBTN2の半リタイピングとハプロタイプ解析	半澤

佐々木大介 C/HSPA2 の 5'UTR と ORF の DNA 多型解析

蓮見 昂大 ニホンウズラ C/DNA の DNA 多型解析

鈴木 太朗 C/Hsp90A1 の DNA 多型と熱応答性と
の関連

長谷川怜加 ウシ29番染色体にマッピングされた黒毛
種子牛死産の原因遺伝子探索

玉井 貴寛 ニホンウズラ TLR15 遺伝子多型解析

波多野薫子 ウマ赤血球系幹細胞の二段階液体培養
増殖分化に関する研究

近澤 裕典 RBP4 遺伝子多型と黒毛和種の脂肪交雑
との関連

早田 昂司 植物性凝集素を用いたニホンウズラ赤血
球凝集原に関する研究

當間 恵理 SCD 遺伝子多型と黒毛和種の脂肪交雑
との関連

原 翔太 ニホンウズラ B 系の個体識別における
マイクロサテライトの探索

中島 諒 ニホンウズラ C/CCL1 および C/CCL2
の DNA タイピング

福本 智史 ニホンウズラ MhcCoja 領域のハプロタ
イプ解析

橋本 祥大 ニワトリ GcMx の DNA タイピング

船本 優菜 植物性凝集素を用いたニホンウズラ赤血
球凝集原に関する研究

新原 拓 鳥類の消化器官の分化と腸管組織へ上皮
細胞について

松本 駿 ホルスタイン子牛死産の候補原因遺伝子
の探索

酒井 美穂 ニホンウズラ K および P 系の
TLR2type2 遺伝子のタイプ特異配列領
域の多型

松山 美穂 ニワトリ TLR4 遺伝子の構造とその働
きの調査

赤坂 愛海 ニホンウズラ C/BTN1 と C/BTN2 の
リタイピングとハプロタイプ解析

三宅 直人 黒毛和牛の RBP4 遺伝子多型の探索

望月 石花 ウマ赤血球の分化成熟過程における
EPOR および HIF 遺伝子の mRNA

森 風太 ニホンウズラ MHC 遺伝子領域における
DMB1, DMB2 の発現解析

山田麻衣子 競技馬の運動内容及び状態別における
赤血球浸透圧脆弱性と血液性状の年間変動

家畜飼養学研究室

飼料と管理、栄養の3本柱を中心に環境への配慮も含め安全で効率的な畜産物の生産をめざし追求しているのが家畜飼養学研究室です。本研究室では、脂肪をエネルギーとして燃焼するのに必要なカルニチンや抗酸化作用を持つカテキンなどを与えた際に家畜に及ぼす影響を研究しています。他にも、作物茎葉などの未利用資源の飼料化、飼料組成に基づくアンモニアガスの揮散抑制など幅広く研究しています。

各研究は池田周平教授、祐森誠司教授、黒澤亮助教授の指導のもと日々研究を行っており、卒業論文としてはもちろん、成果は学術研究会の場で毎年発表されています。

研究室活動は、室員交流や団結のための歓迎会や納会など様々な行事、家畜生産現場へのインターンシップ、飼料成分分析実験、収穫祭への参加(本年度 模擬店・コロコロ焼き、文化学術展・粗飼料自給率100%はなぜ達成しないのか)などがあり、研究室生活は充実し室員は楽しく過ごしています。先生方は実験や実習の場でも、事業においても時に厳しくご指導を頂けるので、勉学や飼養管理技術のみならず社会人としてのあり方まで学ぶことができます。

氏名 卒業論文題目 指導員

池田 大朗 廃鶏の肥育方法に関する検討 池田 黒澤

石橋 彩加 肥育後期の豚に米ぬかを添加した甘藷茎葉サイレージを給与した際の肉質に関する影響 池田 黒澤

上野 聖喜 ムラサキイモエキス添加飼料を摂取した肥育後期豚の排泄物から揮散するアンモニアガスに関する研究 池田 祐森

浦野 由真 黒毛和種子牛の血中L-カルニチン濃度と成長に関する研究 池田 祐森

江口 慎悟 肥育後期の豚に米ぬかを添加した甘藷茎葉サイレージを給与した際の血中コレステロールに関する影響 池田 祐森

上飯屋春華 ニホンジカにおけるトウモロコシを主原料とする菓子類の嗜好性に関する検討 池田 祐森

工藤 寛之 ムラサキイモエキス添加飼料の給与が肥育後期豚の酸化、抗酸化および血中脂肪に及ぼす影響 池田 祐森

白井 淳 肥育後期の豚に米ぬかを添加した甘藷茎葉サイレージを給与した際の成長に関する研究 池田 祐森

鈴木孝太郎 高脂肪食飼料を摂取するラットへのムラサキイモエキス給与が粗脂肪の吸収に及ぼす影響 池田 祐森

相馬 大志 ムラサキイモエキス添加飼料の給与が肥育後期豚の成長と飼料消化に及ぼす影響 池田 祐森

滝沢 望 キクイモ粉末の給与が添加による産卵鶏の卵殻質とカルシウム出納に及ぼす影響 池田 黒澤

竹田 知怜 ムラサキイモエキス添加飼料の給与が肥育後期豚の肉質に及ぼす影響 池田 祐森

富岡 沙耶 給与する茶殻の違いがラットの嗜好性および高酸化能に及ぼす影響 池田 祐森

星野 瑛代 分娩前後のL-カルニチン給与がジャージー種の泌乳量とL-カルニチンの出納に及ぼす影響 池田 祐森

松井 馨祐 高脂肪食を摂取するラットへのムラサキイモエキス給与が肝臓へ及ぼす影響 池田 祐森

古賀 一成 茶カテキンの給与がラットの腸内微生物叢に及ぼす影響-VFAと糞尿由来アンモニア発生を指標として- 池田 祐森

齋藤明日香 運動を負荷したラットへのL-カルニチン給与が血中ならびに体脂肪の脂肪酸組成および血中L-カルニチン濃度に及ぼす影響 池田 祐森

坂井 香澄 東京湾で採取できるオゴノリならびにウミトラノオの飼料化に関する検討 池田 祐森

佐藤 裕太 分娩予定二週間前からバイパスリジンを給与した乳牛の血中L-カルニチン濃度について 池田 祐森

塩田 祐真 米ぬかを添加した甘藷茎葉サイレージの給与が肥育豚の排泄物から揮散するアンモニアガスに及ぼす影響 池田 祐森

式地 優貴 分娩予定二週間前からバイパスリジンを給与した乳牛のL-カルニチン出納について 池田 祐森

菌朶尾陽太 ブドウ種実の筋胃による破碎程度の検証 池田 黒澤

松井 秀聡	分娩予定二週間前からバイパスリジンを給与した乳牛の泌乳量と乳成分について	池田 祐森
道上 彩加	豚舎における衛生害虫忌避剤の再実証試験	池田 祐森
村上 太一	窒素形態の異なる飼料が日本白色種成兔の臓器中のL-カルニチン量に及ぼす影響	池田 祐森
高島 惇三	産卵鶏飼料への乳化剤添加が粗繊維消化率に及ぼす影響	黒澤 池田
多田 文慶	ピルビン酸給与が盲腸切除ラットに及ぼす影響	池田 祐森

畜産物利用学研究室

本研究室は、室長の鈴木敏郎教授、多田耕太郎教授、中村優助教、小泉亮輔助手のご指導のもと、大学院生4名、4年次生35名、3年次生32名、総勢75名で構成されており、先進的な加工・分析技術を用い、新しい畜産食品の研究開発に取り組んでいます。

具体的には、乳・肉・卵中に含まれる各種成分の化学・物理的特性ならびに栄養・生理的機能特性を品種・個体・分子レベルで研究しています。また、先進的な食品加工技術である超高压処理を用いた新しい畜産食品の研究開発、未利用状態にある畜産副産物(内臓、骨、皮等)を食料資源として活用する研究を行っています。研究成果は、食品の機能性や保存性の向上、製品加工工程の改善及び新しい加工食品の開発に利用されています。

研究活動では、3年次に実施する食品の分析や生菌検査等から実験手順や操作方法を学び、4年次の卒業論文実験に活かして、より正確性の高い研究を重ねていきます。年間を通しては、新入生歓迎会、総会、納会、収穫祭に向けたハム・ベーコンの製造実習、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会等を行い、お互いの絆を深めつつ、研究室の更なる発展を目指して活動しています。

氏名 卒業論文題目 指導教員

青島 貴史	雪中貯蔵による和牛のエイジングに関する研究	鈴木 多田
真木 香	雪中貯蔵による交雑牛のエイジングに関する研究	鈴木 多田
岡中 真帆	真帆 雪中貯蔵による交雑牛のエイジングに関する研究	鈴木 多田
梶原 夏紀	梶原 夏紀 雪中貯蔵による交雑牛のエイジングに関する研究	鈴木 多田
新崎 貴広	銅線生地を用いた食肉の保存性に関する研究	鈴木 多田
山口 智史	山口 智史 銅線生地を用いた食肉の保存性に関する研究	鈴木 多田
會田 崇之	超高压処理を用いた減塩食肉製品の開発に関する研究	鈴木 多田
田嶋 元司	田嶋 元司 超高压処理を用いた減塩食肉製品の開発に関する研究	鈴木 多田
石井 達也	超高压処理と水晒しを併用した豚心臓ソーセージの製造に関する研究	鈴木 多田
小川 茜	小川 茜 ソーセージの製造に関する研究	鈴木 多田
内田 梨央奈	糸状菌を用いた発酵肉の製造に関する研究	鈴木 多田
内田 若菜	内田 若菜 糸状菌を用いた発酵肉の製造に関する研究	鈴木 多田
竹田 大亮	溶解媒の硬度およびpHが鶏ガラエキスの抽出性に与える影響に関する研究	鈴木 多田
細田 大貴	細田 大貴 溶解媒の硬度およびpHが鶏ガラエキスの抽出性に与える影響に関する研究	鈴木 多田
早野 美咲	GABA生成乳酸菌を用いた発酵食肉製品の製造に関する研究	鈴木 多田
早川 奈央子	早川 奈央子 GABA生成乳酸菌を用いた発酵食肉製品の製造に関する研究	鈴木 多田

澤田 直弥	GABA生成乳酸菌を用いた高粘度	鈴木 多田
中島 剛史	ヨーグルトの開発	鈴木 多田
八重樫 凜	GABA生成乳酸菌を用いた発酵	鈴木 多田
安木 博哉	バターの製造に関する研究	鈴木 多田
小比田澄佳	豚皮を用いた発酵食肉の製造に関する研究	鈴木 多田
横溝 恵		鈴木 多田
上村 春香		鈴木 多田
伊集院令佳	高酸化性ポリフェノールを含有するチーズ	鈴木 中村
長原 祐司	製造に関する研究	鈴木 中村
飯村 隼人	チーズに含有される高酸化ポリフェノール	鈴木 中村
齋田 祥之	に関する研究	鈴木 中村
金井 良輔	エミュー卵の加工特性に關与するタンパク質の構造に関する研究	鈴木 中村
田中 尚徳		鈴木 中村
露木 美穂	エミュー卵の加工特性の解明とその利用	鈴木 中村
山崎 奏江	に関する研究	鈴木 中村
森 美奈都	超高压処理を用いたソーセージ状食品の	鈴木 中村
和田 淳史	開発に関する研究	鈴木 中村
石井 宏実	超高压処理が乳および卵タンパク質混合	鈴木 中村
鈴木 亜美	ゲルの形成に与える影響に関する研究	鈴木 中村

家畜衛生学研究室

家畜衛生学研究室では、村上寛史教授、小林朋子助教の御指導の下、大学院生二名、四年生三十五名、三年生二十九名で構成されています。本研究室の特徴の一つとして飼育動物の多さが挙げられ、室員は牛班、豚班、鶏班、実験動物班の四班に割り振られます。動物種はヒツジ、ブタ、ウサギ、ニワトリ、ビーグルを所有しており、日々これらの管理を行なっています。

本研究室では、「農場から食卓まで」をテーマとして家畜衛生・食品衛生に関わる研究に取り組んでおり、腸管内細菌の生体内移行による臓器汚染、畜産現場における消毒効果、生乳汚染調査、カビによる飼料汚染、ヨーネ菌による食品汚染および各細菌の薬剤耐性調査などの研究を行なっています。また昨年の収穫祭時の文展では、市販の畜肉を用いて細菌汚染について調査しました。

年間行事としては、定期的に実施される定例会をはじめ、新入生歓迎会、収穫祭、研修旅行、慰霊祭、餅つきなどを行ないます。これらの行事を通して室員・教員の団結を深め、より良い研究室活動が出来るよう各々が自覚を持って活動しています。

氏名 卒業論文題目 指導教員

芦田 馨	Campylobacter jejuni 感染の有無によるプロイラー盲腸粘膜の変化	村上 小林
石崎 彩	プロイラー嚙囊におけるサルモネラ分離状況	村上 小林
岩澤 由貴	プロイラー盲腸から分離された Campylobacter jejuni の薬剤耐性	村上 小林
押野 隼人	Actinomyces denticolens のマウスに対する病原性試験	村上 小林
加藤 綾	富士農場における新搾乳システム装置交換後のバルク乳検査	村上 野口
鎌田 陸	プロイラー嚙囊における Campylobacter jejuni 離状況	村上 小林
窪田 翔太	扁桃での Actinomyces 属菌の分離の一助となるミラー切片作製法	村上 小林
小森 勇人	野外放置における消石灰の消毒効果	村上 小林

三枝 晃	消毒薬放置における消毒効果	村上 小	辻 康秀	畜肉及び内臓の生食による食中毒発生状況調査	村上 小
里吉 南	In vitroにおける各種消毒剤の効果	村上 小林	東城 結花	富士農場における新搾乳システム装置交換後の洗浄排菌中の細菌数	野口 村上
篠原 悠里	Cladosporiumに及ぼす湿度と水分活性の影響に関する研究	村上 高鳥	長嶋 翔	一食鳥処理場に搬入されたプロイラー盲腸のサルモネラにおける薬剤耐性	村上 小林
杉田 貴典	プロイラー血液からCampylobacter jejuni分離の試み	村上 小林	中林 光	牛白血病ウイルス検出法の検討	村上 小林
杉原 敬弥	犬の鼻腔及び口腔から分離されたコアグラージェ陽性ブドウ球菌の菌種同定	村上 小林	名和由加里	市販乳用調整粉乳におけるヨーネ菌特異的DNAの定量PCR法による検出	村上 小林
高野 安紀	一食鳥処理場に搬入されたプロイラーにおけるサルモネラの分離状況	村上 小林	林 慶司	踏みマットにおける消毒効果について	村上 小林
高橋 寛美	富士農場における旧搾乳パイプラインの細菌汚染状況	村上 野口	林 野一	チラー水洗浄後におけるプロイラーと体表面のサルモネラ分離状況	村上 小林
立花有里子	免疫磁気ビーズ法による扁桃からのActinomyces属菌の分離	村上 小林	林 優希	馬扁桃分離Actinomyces sp. O 16S rRNA解析	村上 小林
田中 恵美	市販乳製品におけるヨーネ菌特異的DNAの定量PCR法による検出	村上 小林	樋口 佳菜	豚扁桃分離Actinomyces sp. O 16S rRNA解析	村上 小林
増田 知美	プロイラー盲腸便から分離された大腸菌の薬剤耐性	村上 小林			
増本 謙徳	Cladosporiumに及ぼす温度と耐熱性に関する研究	村上 高鳥			
水野 遥	富士農場における新搾乳システム装置交換後の乳量変化	村上 野口			
宮下 一仁	茨城県の種鶏場における脚弱の原因究明	村上 小林			
山田容志江	チラー水洗浄後におけるプロイラーと体表面のCampylobacter分離状況	村上 小林			
米澤由布子	Cladosporiumの制御に関する研究	村上 高鳥			
力丸紫緒理	踏み消毒槽における消毒効果について	村上 小林			
安部 水起	各種家畜の白血球形態比較	村上 小林			
寺田 佐織	市販ドッグフードにおけるヨーネ菌特異的DNAの定量PCR法による検出	村上 小林			

畜産マネジメント研究室

我が研究室では谷口信和教授と信岡誠治准教授の指導の下、平成二十六年度は四年生二十六名、三年生二十名、計四十六名の態勢で研究室活動を行っています。主に畜産経営・経済や流通問題を軸として、生産から消費までの課題解決へ向けて実習やゼミに取り組んでいます。

研究室の研修旅行は、九月下旬に長野県松本市の会田共同養鶏組合と長和町の長門牧場を訪ねて、六次産業化の取り組みの視察とともに直接経営者から話を伺い、現場での研修を行いました。組合の「たまごの駅」での卵料理や長門牧場のレストランでの昼食ではこだわり食材の味を堪能しました。さらに直売や加工品製造の取り組みや飼料用米の配合施設、草地基盤に立脚した酪農経営などこれからの畜産経営のあり方を学びました。

卒論研究では研究室活動の一環として、伊勢原農場柵沢圃場において二十アールの水田で飼料用米の栽培を行い、また、東日本支援プロジェクト研究に参画し福島県南相馬市で水田二十アールを借り飼料用米を栽培し、稲へのセシウム吸収抑制試験と乳牛や鶏などへの給与と試験を行いました。

飼料用米の新たな活用法として粃米のゲル化による新食品素材の研究にも取り組んでいます。

氏名 卒業論文題目 指導教員

青木 玄真 牛乳(飲用牛乳)と乳製品の消費量から見る若者の牛乳離れの現状 信岡

池上 亮 飼料用米におけるセシウム吸収抑制法の開発「ゼオライトとカリ肥料によるセシウム吸収抑制効果について」 信岡

池本 朱美 稲ホールクroppサイレイジ(稲WCS)におけるセシウム吸収抑制法の開発「ゼオライトとカリ肥料によるセシウム吸収抑制効果について」 信岡

牛丸 裕喜 県内産稲わら100%の粗飼料基盤にもとづく飛騨牛生産の道「U畜産における粗飼料の利用構造転換を通じた経営改善」 信岡

坂本 耕平 大型農産物直売所における出荷者の確保問題「JA厚木夢未市を事例として」 信岡

佐藤 弘祐 飼料用米におけるセシウム吸収抑制法の開発「稲ワラのセシウム濃度について」 信岡

澁谷 拓果 購入飼料価格と販売卵価の相対関係を通じたS養鶏農場の経営動向と改善の方向 信岡

東原 正弥 香川県における銘柄豚の経済性と成立条件 信岡

福田 夏未 高アミロース米(モミロマン)の米ゲル化による新食品素材としての可能性「食品素材としての活用法について」 信岡

星野 美晴 稲ホールクroppサイレイジ(稲WCS)におけるセシウム吸収抑制法の開発「セシウム吸収量の品種間差異について」 信岡

本村 直丸 鶏肉消費にせめる国産地鶏の意義と課題「宮崎県の地頭鶏を素材として」 信岡

守屋 智博 飼料用米におけるセシウム吸収抑制法の開発「生育ステージ毎のセシウム吸収量について」 信岡

油原 愛江 高アミロース米(モミロマン)の米ゲル化による新食品素材としての可能性「加熱処理の方を中心として」 信岡

横塚 祐季 飼料用米を用いた超微粉砕米粉の食品としての可能性「パンの製造を主として」 信岡

服部 大樹 超微粉砕粃米(タカナリ)のゲル米パンの特性について 信岡

島岡幸太郎 飼料米(モミロマン)の米ゲル化による新食品素材としての可能性「アレルゲンフリーを中心として」 信岡

鈴木 瑛子 飼料用米におけるセシウム吸収抑制法の開発「水田土壌と用水のセシウム濃度の変化について」 信岡

竹森 杏樹 稲ホールクroppサイレイジ(稲WCS)におけるセシウム吸収抑制法の開発「生育ステージ毎のセシウム吸収量について」 信岡

月尾 清宏 子牛価格の高騰問題を通して我が家の経営を考える 信岡

中塩康太郎 低レベル放射性Cs含有の飼料用米給与試験「ゼオライト給与による鶏肉へのCs濃度低減」 信岡

中村 大輔 低レベル放射性Cs含有の飼料用米給与試験「鶏卵へのCs移行程度とゼオライト給与によるCs濃度低減」 信岡

西村 祥太 PED(豚流行性下痢)が豚価に与える影響 信岡

長谷川周平 和牛子牛価格の高騰下における肥育専業経営の課題と今後の展望 信岡

農大という機会

家畜繁殖学研究室

白砂 孔明

新入生の皆様、そして同窓会の皆様、初めてのご挨拶させていただきます。平成26年4月から畜産学科家畜繁殖学研究室にお世話になっております。本報の原稿依頼を受け、もう1年が終わる：そして「農大新人です」とも言えなくなる：と驚愕しているのが正直な感想です。

新人の挨拶ということで、少し私の紹介をさせていただきます。

生まれは東京ですが、小学生～高校生までは埼玉県で過ごしてきたため、自分の出身地は？と聞かれたら「埼玉です」と即答します。話はいきなり脱線傾向ですが、「埼玉」と言えば？当然、浦和レッズですね。私は小学校からサッカー一筋であり、この赤い熱狂集団の中で毎週末、苦業を共にしています。

大学は、北海道の帯広市にあります、帯広畜産大学 生殖科学研究室を卒業しました。研究室名は異なりますが、研究室の出身は農大家畜繁殖学研究室と同様です。この研究室に在籍している間は、基本的には乳牛の卵巣機能について研究していました。細かい話は置いておき、乳牛の研究を行うということは基本的には農場で動物実験を行います。北海道の農場で実験、ということ、非常に危険に

なるのは農場の実験です。一言に北海道と言っても実は様々で、札幌や旭川は非常に雪が多く降る地域ですが、帯広や釧路などの道東地域はそこまで雪が多く降る地域ではありません(年に数回、一晩で50～80センチメートルというドカ雪が降りますが)。しかし、最大の問題は、帯広の冬は非常に寒いということです。日中の最高気温がマイナスであることは当たり前、最低気温は-20度を下回ることも良くあります。そのような中の実験、今思い出しても本当に大変でした。ウシの背中では凍ってピカピカ、人間は雪中で動きが遅いので走り回るウシを捕まえるのに息が切れ、ウシに装着していたカテーテル(という細い筒状のもの)の中が凍ってしまったため実験のための液体を流し込めない：、などなど今では笑える困難続きでした。

卒業後は様々な場所で修業をさせていただきました。ある製菓企業で新薬の安全性研究を経験できたことで、その後の研究の方向性が変わりました。その後は母校の教員としてグローバルCOEというプロジェクトに参加させて頂き、海外との相互作用という大きな視点を持つことができました。最後は自治医科大学医学部の教員として修行をさせて頂き、これまで感じたことがないような研究の重要性や発展性に気づかされました。色々な場所にフラフラと行って過ごしたような印象もありますが、全て、今の私を造り出している重要な機会であったと感じています。

農大という素晴らしい機会を与えて頂いた今後は、これまでの経験を全て活かし、そして発展させながら、貢献をできればと考えています。

今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

畜産学科に戻ってきて

家畜生理学研究室

平野 貴

東京農業大学 畜産学科家畜生理学研究室を平成6年3月に卒業し、長い時間が経った平成24年4月より再び畜産学科でお世話になっております。この場を借りて、少し自分のことを紹介させていただきます。

私は卒業後、畜産技術協会附属動物遺伝研究所に研究員として就職しました。動物遺伝研究所は「ここからみちのく」の福島県西白河郡西郷村にあります。そこは、ウシ(特に黒毛和種)の経済形質や遺伝性疾患についてDNAレベルで研究を進めている研究所で、入所後は黒毛和種のゲノム解析に携わりました。動物遺伝研究所が実施している研究は、各道県の畜産研究機関との共同研究が進められ、一年に何度か多くの共同研究者が2週間以上の長期出張でやって来ました。研究所では、同僚やその各道県の共同研究者達と夜遅くまで、時には夜が明けるまで一緒に実験し、そして、たまには(?)一緒にお酒を飲み、人との太い繋がりをつくることができました。埼玉出身で東北生活が初めてだった私にとって、水道が凍るほどに寒い冬は耐え難いもので、最初の頃は関東に戻ることをばかり考えていました。それでも、18年という長い間、西郷村で生活を続けてきました。それもこれも、大変なことや厳しいことばかりでも、こういった多くの仲間達との研究生活が充実したものであり、楽しかったお陰だと思っています。仲間達と進めた研究の中から、大きな成果を上げることができました。本当に、多くの貴重な経験をする事ができました。そして、そこで築いた人との繋がりは、私にとって大きな宝とし

なっています。

そして、先に示しました通り、あの東日本大震災から1年が経った平成24年4月から家畜生理学研究室で、今度は教員としてお世話になっていきます。私が学生のとき、畜産学科は世田谷キャンパスにあり、厚木キャンパスは、まだ厚木農場でした。今と同じく、畜産部門は富士農場だけだったので、私は厚木農場で実習を行うことはありませんでした。そのため、私と厚木との関わりは、新入生当時にオリエンテーションで厚木農場に訪れたのと、卒業後に、収穫祭に合わせて開催される研究室の懇親会に何度か訪ねて来た程度でした。それでも、着任して感じた畜産学科の雰囲気は、私が学生だった当時と変わらず、18年ぶりの農大生活に懐かしい気持ちにさせられました。しかし、以前と世の中が変わってきていることや、何よりも自分の立場が変わっているため、心配になることばかりでした。そんなことを感じてから早くも3年が経とうとしています。講義、実験・実習、農場実習等で、多くの学生の皆さんと向き合せて頂きましたが、自分に足りないことが多く、これからも頑張らなければいけないと痛感しています。

高校受験や大学受験を始めとして、これまで、あのときと別の選択をしていたら、今頃何をしているのだろうか？と、思えるいくつかの大きな転機がありました。そして、そのそれぞれに様々な人が関わって下さいました。目の前に現れた選択枝が自分の人生にとって、どれだけ大きいのかは、そのときには感じないと思います。それを通り越し、振り返ったときにその大きさを実感することと違います。一人でできることは限られている、とよく言われます。私は、それを実感してきました。この農大で、これまでに経験したことや感じたことを伝えながら、学生の皆さんに訪れる転機に、良い協力者となれるよう頑張っていたと思います。どうぞ、よろしくお願ひ致します。

集う学友

様々な人の輪

畜産学科

4年 北山 岳

私が東京農業大学を志望したきっかけは、2010年に宮崎県で発生した口蹄疫である。私の実家は宮崎県で養豚業を営んでおり、口蹄疫の被害を受けた。当時、高校3年生だった私は、高校卒業の進路を考えており、父から「実家の後は継がなくていい。」と頭に残るほど言われていたため農業とは全く別の進路を考えていた。しかし、その時期に口蹄疫が発生し、農業の恐ろしさを知った。父が養豚業を辞めようとしていたこともあるが、自分の中でそんな恐怖と闘いながら豚肉を生産している両親を初めて誇りに思い、私は父に後を継ぐとはっきり言えた。後を継ぐ決心をした私は、豚に関する知識がなかったため実学主義で有名な東京農業大学を選んだ。

農大に入学して得たことは、大きいものであった。特に「様々な人の輪」ができたことである。大学3年生の時に養豚業の後継者や豚のことが好きな人が集まり、愛豚会という同好会ができた。私はその愛豚会に加入し、父親同士の研修先が同じであったり、私の実家の銘柄豚グループと取引していたりしていたメンバーがいて豚業界の世間の

狭さに驚いた。愛豚会の人と仲良くなるにつれて牛極會の

人たちとも接する機会が増え、豚以外に牛のことも多少は理解できるようになったので、畜産に対する思考の幅が広がったと思う。そして徐々に色々な人と話していくうちに憧れの先輩方、可愛い後輩たち、それぞれの夢を追い続ける同級生、かけがえない人たちと出会うことができた。愛豚会はそのきっかけを作ってくれた大事な存在である。

また、私は養豚現場の経験を積みたかったので、同じ研究室の先輩の紹介で、柏木養豚に行くことになった。柏木養豚はランドレース、大ヨークシャー、デュロックの純粋種を養っており、母猪と種豚を自家生産していて、実家の養豚管理しか知らない私は衝撃的だった。またエコフイードを行うなど色々な工夫をされていたのだが、私が一番印象に残っているのは、ドラッカー著作のマネジメントという本の考え方を養豚業に取り入れていたことである。目標を立て、その目標が成功するにはどうすればいいのかを細かく理論的に導く。当たり前のことなのかもしれないが、再確認することで養豚以外にもたくさん場所での考え方を生かせることが理解できた。そして、柏木養豚が参加する豚肉共進会などについていき、関東の獣医師、加工会社、飼料会社の方々ともお会いできた。

私は、豚に関することを学ぶ目的で東京農業大学に来たわけだが、それ以外の知識や人間関係など宮崎県では得ることのできない大切なものを得た。私に関わってくれたすべての人には感謝の一言に尽きる。

一年間の収穫

畜産学科

3年 菅原 礼太郎

農大に入学し二年が過ぎた。農業高校出身の私は実習を期待し農大に入学したのだが、大学生活の半分が終わり正直満足いくほど現場での実習はしていない。高校三年間毎日牛とともに過ごしてきた自分には、年一回の富士農場実習はとても物足りなく感じるため、毎年夏に北海道に行き、酪農家での実習を積んだ。

そんな物足りなさを感じながら、三年生になり家畜生理学研究室へ配属された。高校生の時、全くといって興味を示さなかった遺伝子について研究することになった。最初は先生や先輩方から実験について説明してもらっていたが、農業高校出身で生物Ⅱさえ勉強していない私にとっては、その説明を一言も理解できず、まるで外国に来てしまったかのような感覚に陥ってしまった。しかしそんな状況を打破すべく遺伝子について勉強していくなかで、理解すればするほど遺伝子について興味をもってきた。そして自分の研究を決める際には、自分がやりたい実験を見つけることができた。それは高校のときの乳牛管理の経験をもとに、乳牛の生産病である乳房炎に関連している遺伝子の研究である。現場での実習が好きだった私にとつて、少しでも畜

産農家の現場で役立つような研究がしたいと思ったのが

きっかけである。そして実際にやってみると、最初は非常に難しく、言葉では簡単に聞こえる一個一個の動作を実際にやろうと思うと、その通りに手が動いてくれない。しかし実験に成功したときの達成感はとても大きい。実験のなかで私が一番達成感を感じたのは、牛の血からDNAを抽出する際に、実際に自分の目でDNAを見ることができた時だった。普段何気なく生活していて生物のDNAなど見ることは無い。しかし自分が行なった実験でそのDNAを見ることはできたという喜びは今後の励みになることは間違いないだろう。実習が無いゆえに空いた心の穴をこの喜びで埋め、またこれを励みに今後の実験もしっかりとやっていこうと思う。

またサークル活動では軟式野球サークルに所属し年四回山梨や長野、群馬、千葉に合宿に行き、大会に出場して他の大学と試合をする。中学生の時、硬式野球をやっていたのだが、高校の時に全くスポーツをしなかったので体が全く動かなかった。しかし、みんなでスポーツをする時間はとても充実し、中学の時に練習が厳しくて嫌いになりかけていた野球も、改めて好きになることができた。

これまで様々な経験をしてきたなかで、たくさん人の人に支えてもらった。この場を借りて支えてくれた両親や先生、友達に感謝申し上げます。そしてこれからもよろしくお願ひいたします。

大学生活と部活について

畜産学科

2年 新井 瑛理

私たちがこの大学に入学してから早くも二年が経つ。キャンパス内、多くの学生が部活動やサークル活動に精を出している光景をよく見る。一生懸命な人が好きで、みんなのそんな姿を見ては自分も頑張らなくてはと奮っている。そんな私はこの大学で、総務部員として二年間を過ごしてきた。

農大生としての私の大学生活の半分は部活での活動が占めている。十数あるほかの部活に比べ総務部の部員数は決して多くはなくても忙しいけれど、自分がやらなくてはという意識の成長を感じられ、やり遂げた後の達成感・満足感はきつとほかでは得難かったのではないかと思う。

秋に行われる収穫祭のほか、新入生歓迎会や農友会大会、スポーツ大会など一年を通して行われるイベントの運営なども総務部の活動である。収穫祭運営の際は、私は特別企画本部のメンバーとして二年間、ステージ企画のサポートを行ってきた。

一年生のはじめ、高校時代も文化祭実行委員をやっていたからとなしに総務部を選び入部し、特別企画本部に配属された。年だつて自分と一つ二つしか違わない、先

に一年間二年間と総務部員として過ごしてきた先輩方は懸命で手際も良く自分の任された仕事を真面目にこなしていて、とても素敵に見えた。自分が二年生三年生になつたとき、同じようにできるのだろうかと不安に思ったこともある。そのときの自分の器量を考えて先が心配ではあつたけれど、一緒に入った個性的な同期の人たちと一緒にやっていると、いけるなら面白いかもしれないと気持ちが高まつた。

二年生になり、先輩ができた。他人に物を教えるというのはとても難しいとわかつた。指導初心者の私は先輩として日々奮闘している。それでも先輩たちは素直でわからないことはよく聞いてくれ、それがあまりできていなかった一年生のころの私よりもよっぽど良い先輩だと思ひ、とても期待している。先輩後輩によく恵まれてとても幸いだった。来年度は私が特別企画本部の委員長をつとめる。その時、この先輩たちに繋げていけるようなものを作りあげていきたい。

文章だとボキャブラリー不足の私にはなんだかありきたりな声明のようなことしか書けないので、これを読んだ皆さんには来年度、実際の動く精一杯一生懸命の私を見てほしい。

この二年間は得られるものがとても多かつた。人に頼ること、あまり頑張るべきでないこと、計画的な物の進め方。二年間で学べたことはこの先も役に立つてくれると思う。大学生活の残り二年間、どんなことがあるのか、どんなことを勉強していけるのかとても楽しみな。

充実した大学生活

畜産学科

1年 松 永 正 恵

農大での勉強、初めての一人暮らしに不安を抱え始めた大学生活。入学当初は新しい環境に慣れず戸惑いましたが、すぐに友人もでき、楽しい大学生活がスタートしました。興味深い専門的な内容の講義や試験、畜産実習、サークル活動など農大での充実した日々があつたという間に流れていきました。

農大に入学して初めて行われた前期の試験。私は大きな不安を抱えていました。しかし、毎回の講義の復習や空き時間を有効に活用し友人と勉強を行うなどの努力をし、乗り越えることができました。試験勉強は大変でしたが、専門的な知識が深まり勉強する楽しさを感じることができました。

夏季休業中に行われる、3泊4日の畜産実習では、今までに学んだことをフルに活用し、実践するという貴重な体験をすることができました。家畜・家禽に実際に触れることで、管理の大変さを実感しました。さらに畜産への興味も深まり、将来就きたい職業の視野も広げることができました。畜産実習は私にとって、多くのことを学び感じることでできた忘れない経験になりました。

サークル活動は主にファームینگサークルの活動をしています。ファームینگサークルでは農家さん、酪農家さんのお手伝いを中心に作業をしています。畜産学科の私にとって、酪農家さんのお手伝いは、1年次にはあまり行う機会のない搾乳や牛舎の清掃をすることができ、とても楽しく充実した活動になっています。また収穫祭では自家製野菜も使った、野菜たっぷりポトフを販売しました。なかなか計画が進まず苦戦した看板やのぼり作りでしたが、サークルの先輩や友人と協力し合い完成させることができました。収穫祭当日は朝早くから仕込みを行い、みんなの努力のおかげで美味しいポトフを作ることができました。お客さんからの「美味しかったよ」の一言が、なにより嬉しく、頑張つて良かったと心から思える瞬間でした。収穫祭を通して、先輩の存在の大きさと仲間と協力することの大切さを実感しました。

収穫祭が終わつてからは私たち1年生が中心となつてサークル活動を進めていかなければいけません。まだまだ不安でいっぱいですが、素晴らしい先輩たちの姿を見習つて、1年生みんなで団結して活動していきたいと思ひます。

農大生としての1年生は、吸収することがたくさん楽しいことだけでなく、苦労もありました。しかしそんな時、友人や遠くから励ましてくれる親の支えがあり、乗り越えることができました。2年生になったら、勉強やサークル活動がより大変になると思いますが、何事にも一生懸命に取り組み、自分を成長させたいです。そして、充実した大学生活を送っていききたいです。

平成 25 年度 畜友会 収支決算報告
収支決算書 平成 25 年 6 月 1 日～平成 26 年度 5 月 31 日

I. 一般会計

収入の部

(単価：円)

科 目	決算額	予算額	差異	備 考
会費				
新入生 (H26年)	1,410,000	2,160,000	750,000	新入生：10,000 円×141 名
編入生 (H26年)	0	15,000	15,000	編入生：5000 円×0 名
過年度分	610,000	2,382,500	1,772,500	在学生：10,000 円×61 名
普通預金利息	375	0	△375	
前年度一般会計繰越金	3,065,521	3,065,521	0	
H23 年度収穫祭特別会計からの繰入金	278,780	0	△278,780	収穫祭特別会計収支差額
合 計 (A)	5,364,676	7,623,021	2,258,345	

支出の部

(単価：円)

科 目	決算額	予算額	差異	備 考
収穫祭特別会計費	703,000	703,000	0	
ふじみの印刷費	278,250	290,000	11,750	
卒業祝賀会費	187,000	180,000	△7,000	
卒業記念品費	229,320	230,000	680	
新入生歓迎会費	50,660	150,000	99,340	①
新入生親睦会費	44,000	50,000	6,000	
消耗品費	0	30,000	30,000	
特別講演会費	0	0	0	
雑費	2,736	30,000	27,264	
予備費	0	5,960,021	5,960,021	
合 計 (B)	1,494,966	7,623,021	6,128,055	
収支差額：(A) - (B)	3,869,710	0	△3,869,710	次年度繰越金

①の差異は歓迎会の料理代が畜友会費から支出されなかったため

平成 26 年度 畜友会 活動報告
平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

畜友会だより

平成 26 年

- 6 月 25 日 平成 26 年度畜友会定期総会
平成 26 年度畜友会・畜産学科収穫祭実行委員会
(統一本部) の立ち上げ
(於 第一講義棟 1102 教室)
- 10 月 1 日 第 15 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 123 回体育祭厚木団結式 出席
(於 レストランけやき)
- 10 月 11 日 厚木パレード 参加 (於 厚木一番街)
- 10 月 20 日 第 15 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 123 回体育祭畜産学科統一本部本部開き
(於 レストランけやき)
- 10 月 31 日 第 15 回厚木キャンパス収穫祭 前夜祭 参加
- 11 月 1 日 第 15 回厚木キャンパス収穫祭 参加
～2 日 (家畜苑、研究棟アート、神輿展示、特別企画、宣伝隊)
- 11 月 3 日 第 123 回体育祭 参加 (於 世田谷キャンパス)
- 11 月 17 日 第 15 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 123 回体育祭畜産学科統一本部本部閉め
(於 レストランけやき)
- 12 月 2 日 第 15 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 123 回体育祭厚木慰労会 出席
(於 レストランけやき)
- 平成 27 年度
- 3 月 12 日 畜友会誌「ふじみの」51 号発行
- 3 月 21 日 平成 26 年度 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
(於 厚木キャンパス)

平成 26 年度 畜友会予算
(平成 26 年 6 月 1 日 ~ 平成 27 年 5 月 31 日)

I. 一般会計予算

収入の部		(単価:円)			
科 目	当年度	前年度	差 異	備 考	
会 費	新 入 生 (H26 年)	2,160,000	2,160,000	0	①
	編 入 生 (H26 年)	15,000	15,000	0	②
	過年度分	2,067,500	2,382,500	△ 315,000	③
雑 収 入	0	0	0	④	
前年度繰越金	3,869,710	3,065,521	804,189		
合 計	8,112,210	7,623,021	489,189		

- ① 新入生: 10,000 円 × 216 名
 ② 編入生: 5,000 円 × 3 名
 ③ 過年度分: 10,000 円 × 202 名 + 5,000 円 × 8 名 + 7,500 円 × 1 名
 ④ 預金利息を含む

支出の部		(単価:円)			
科 目	当年度	前年度	差 異	備 考	
収穫祭特別会計費	693,000	703,000	△ 10,000		
ふじみの印刷費	300,000	290,000	10,000	⑤	
卒業祝賀会費	180,000	180,000	0		
卒業記念品費	230,000	230,000	0	⑥	
新入生歓迎会費	150,000	150,000	0		
新入生親睦会費	0	50,000	△ 50,000		
消耗品費	30,000	30,000	0		
特別講演会費	0	0	0		
備 品	50,000	0	50,000		
雑 費	30,000	30,000	0		
予 備 費	6,429,210	5,960,021	469,189		
合 計	8,092,210	7,623,021	469,189		

- ⑤ 増税のため
 ⑥ 4 年生 230 名 × 1,000 円

平成 25 年度 収穫祭特別会計収支決算報告
(平成 25 年 6 月 1 日 ~ 平成 26 年 5 月 31 日)

II. 収穫祭特別会計

収入の部		(単価:円)			
科 目	決 算 額	予 算 額	差 額	備 考	
一般会計からの繰入金	703,000	703,000	0		
口座維持費	100	100	0		
合 計 (C)	703,100	703,100	0		

支出の部		(単価:円)			
科 目	決 算 額	予 算 額	差 額	備 考	
統 一 本 部	312,223	400,000	87,777	①	
宣 伝 隊	0	50,000	50,000	②	
特 別 企 画	0	0	0		
装 飾	23,179	50,000	26,821	③	
家 畜 苑	76,470	100,000	23,530	④	
体 育 祭	12,348	40,000	27,652	⑤	
雑 費	0	3,000	3,000		
口座維持費	100	100	0		
予 備 費	0	60,000	60,000		
合 計 (D)	424,320	703,100	278,780		
収支差額: (C) - (D)	278,780	0	△ 278,780		

- ① 団結式、慰労会の料理代、飲料代、雑費
 ② 工具などを既存のものを使用したため
 ③ 垂れ幕設置時に使用するロープを買い替えたため
 ④ 家畜搬入に伴う交通費、当日の衣装代
 ⑤ 当日の衣装で使用する布代

上記の通り報告する。
 平成 26 年 6 月 24 日

畜友会会長 半 澤 恵 ㊟

監査報告書

畜友会会則第 9 章、29 条及び 30 条の規定に基づいて平成 26 年 6 月 11 日に平成 25 年度業務及び会計監査を実施しました。

事業報告、通帳、出納帳及び領収書を精査した結果、適切に遂行されたことを認める。

上記に相違ないことを認める。
 平成 26 年 6 月 11 日

平成 26 年畜友会監査委員

原 ひろみ ㊟
 棚 原 憲 佑 ㊟

高 橋 幸 水 ㊟
 増 田 康 司 ㊟

平成 26 年度畜友会役員

平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日

役職(教員)	氏 名	研 究 室
会 長	半 澤 惠	家畜生理学研究室
副 会 長	野 村 こう	家畜育種学研究室
	多 田 耕太郎	畜産物利用学研究室

・執行委員

委員長	3年 福王寺 嶺 平	家畜飼養学研究室
副委員長	3年 中 村 早 織	畜産マネジメント研究室
	2年 入 江 駿 敬	未 定
庶 務	3年 中 里 健 人	畜産マネジメント研究室
	2年 金 子 泰 昭	未 定
会 計	3年 伊 藤 小百合	家畜繁殖学研究室
	2年 内 山 愛 里	未 定
企画・渉外	3年 小 山 美 紅	家畜飼養学研究室
	2年 永 井 明日佳	未 定
編 集	3年 城 詰 完 奈	家畜繁殖学研究室
	2年 敷 地 生 光	未 定
監事(教員)	原 ひろみ	家畜生理学研究室
	黒 澤 亮	家畜飼養学研究室
監事(学生)	3年 増 田 康 司	家畜繁殖学研究室
	2年 小 川 直 輝	未 定

※学年は平成 27 年 3 月現在

特別会計予算

(平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日)

II. 収穫祭特別会計予算

畜友会援助費

収入の部 (単位:円)			
科 目	H26 年度	H25 年度	差 額
一般会計からの繰入金	693,000	703,000	△ 10,000
口座維持費	0	100	△ 100
合 計 (A)	693,000	703,100	△ 10,100

支出の部 (単位:円)			
科 目	H26 年度	H25 年度	差 額
統 一 本 部	400,000	400,000	0
宣 伝 隊	50,000	50,000	0
特 別 企 画	0	0	0
装 飾	50,000	50,000	0
家 畜 苑	100,000	100,000	0
体 育 祭	40,000	40,000	0
口座維持費	0	100	△ 100
雑 費	3,000	3,000	0
予 備 費	50,000	60,000	△ 10,000
合 計 (B)	693,000	703,100	△ 10,100
収支差額(A)-(B)	0	0	0

農友会学科助成金

収入の部 (単位:円)				
科 目	農友会厚木支部助成金			備考
	H26 年度予算額	H25 年度決算額	差 異	
畜産学科助成金	1,809,000	1,808,000	1,000	
預金利息	101	86	15	
合 計	1,809,101	1,808,086	1,015	

支出の部 (単位:円)				
科 目	農大厚木支部助成金			備考
	H26 年度予算額	H25 年度決算額	差 異	
1 事 務 費	15,000	11,460	3,540	
2 記 録 費	10,000	0	10,000	
3 公 用 費	4,000	4,000	0	
4 交 通 費	201,000	128,400	72,600	
5 神 輿 代	140,000	129,954	10,046	
6 パ ネ ル 代	135,000	137,914	△ 2,914	
7 応援合戦・衣装代	220,000	190,515	29,485	
8 学 内 装 飾 費	480,000	457,486	22,514	
9 収穫祭体験企画費	600,000	589,717	10,283	
鋼 管 リ ー ス 代	150,000	154,761	△ 4,761	
運 搬 代	130,000	126,000	4,000	
装 飾 代	170,000	164,952	5,048	
活 動 運 営 費	150,000	144,004	5,996	
10 雑 費	4,000	1,785	2,215	
合 計	1,809,000	1,651,231	157,769	

第十五回厚木キャンパス収穫祭・第二三回体育祭事業報告及び結果報告

【事業報告】統一本部

今年度第十五回収穫祭及び第二三回体育祭畜産学科統一本部の活動は例年と同じく、収穫祭宣伝活動、神輿作成、研究棟アート、特別ステージ企画、家畜苑、櫓装飾、体育祭演舞を行いました。

統一本部（委員長、副委員長）の活動としては、先生方との連絡を取り、第十五回厚木キャンパス収穫祭実行本部及び畜産学科統一本部、農学科統一本部、バイオセラピー学科統一本部、また世田谷十三学科と連携し、第十五回厚木キャンパス収穫祭及び第一二三回体育祭を成功させる為に、夏季休暇から数ヶ月をかけて全力疾走し全身全霊を捧げてきました。本年度はオホーツクキャンパスと共に行うことは出来ませんが、前年度と同じく東京農業大学世田谷キャンパスにて、世田谷・厚木キャンパス全学科で体育祭を競い合いました。

畜産学科統一本部としての全体活動は、新一年生親睦会、新入生歓迎会相模川BBQを開催し、一年生二十四人、二年生十二人、三年生二十人、総勢三十六人で力を合わせて収穫祭及び体育祭を成功に納めることができました。例年と同様に、定期総会、畜産学科統一本部本部開き、慰労会も行いました。また、世田谷キャンパスと合同で全体団結式・慰労会にも参加させて頂きました。来年度の目標は、畜産学科の伝統を継承しつつ、新しい

特別企画

特別企画とは、収穫祭前夜祭・本祭で行われるステージ企画の作成および運営を任されている部門です。

今年度の畜産学科統一本部特別企画部門が作成・運営をした企画は「NBC (Nodai Beauty Contest)」 「ぶつつあけ方言選手権」の2つで、どちらも昨年と同じ企画名ですが内容を一新して作成することになりました。「NBC」とは、東京農業大学の最も美しい男女を決める、いわゆる美男女コンテストです。この企画は例年畜産学科が本祭1日目のトリを任されており、今年も参加者が男女合わせて8人集まり大いに盛り上がりました。もう1つの「ぶつつあけ方言選手権」は昨年から行われていて、地方出身の農大生が方言を交えて自分の故郷をアピールするという企画です。両企画とも試行錯誤しながら部門の全員が協力して本番を成功させることができました。

例年ステージ企画は、屋外の特設ステージで開催されましたが、今年度は新しい学生会館の建設に伴い体育館での開催になりました。初めての体育館での開催に右も左もわからない状況でしたが、他学科・総務部と協力し情報を共有してステージを作ることができました。活動の中でステージを作成・運営することの大変さに面白さ以上の喜びが勝っていて、どうすれば観客に伝わる良い企画が作れるのかと考える毎日でした。来年は今年の反省点を踏まえつつ、観客が笑って楽しめる企画を作っていこうと思います。

事にチャレンジして革命を起こし、第六十六代の団結力を活かして収穫祭、体育祭を盛大に盛り上げて優勝旗を厚木キャンパスに掲げます！



宣伝隊

宣伝隊とは厚木市内、市外で祭りや小田急線の各駅に行き、収穫祭のピラやうちわを配り農大ならではの大根踊りを踊ったりして、農大を宣伝する部門です。活動中は、東京農業大学厚木キャンパスのモチーフである大根と鮎の柄が入った白い浴衣に法被を羽織り、収穫祭の文字を背中に背負って宣伝活動をしています。

今年はず、八月に行われた鮎祭りの Dance Legend に参加し、うちわを配りました、また大根踊りと口頭宣伝しました。またジャズナイトフェスティバルでの宣伝、各駅宣伝活動、本厚木駅周辺、海老名などのお店にピラとポスターを置いてもらい、地域の町で宣伝しました。収穫祭も間近になった十月には宣伝隊主催の最大イベントの厚木パレードを開催しました。このパレードでは神輿を担ぎ、大根踊りをしたりで、農大生が厚木の町を盛り上げました。どの活動でも、たくさんの方が、「今年の収穫祭はいつなの？毎年行っていて今年も楽しみ。」と声をかけていただき、毎年宣伝活動する楽しさをみんな感じました。

収穫祭当日は野菜の無料配布を二日間で計四回行いました。今年は例年よりも人が多く集まり大根、ネギなどの野菜はすぐに配りおわるほど大盛況でした。新たな試みで抽選会も行い予想よりも多くの人に来て下さり、ピラの宣伝効果を身をもって体験できました。

来年度は来場者の事は気にせず、農大に來たいといってくるような魅力のある農大作りをしていきたいです。

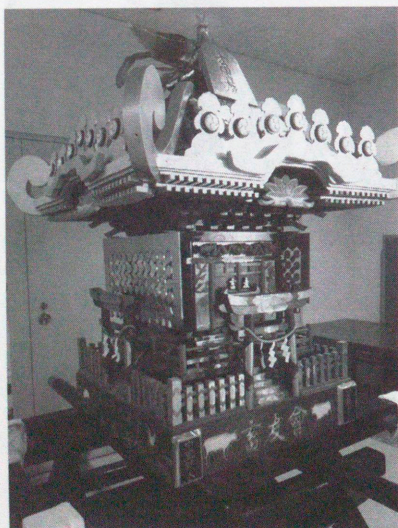
神輿

神輿部門は、厚木一番街で催される「厚木パレード」において、収穫祭の宣伝、並びに本祭の盛り上げのため、夏休み開始と共に神輿作業の幕開けをし、約三か月間の製作を行ってきました。

今年度も昨年度と同様、本祭における厚木キャンパス内での一般投票と、世田谷キャンパスでの教員審査が行われました。教員審査において、今年度は昨年度の写真判定とは異なり、実物判定でした。

今年の畜産神輿は、去年とはガラッと配色を変え、茶色ベースで渋く、インパクトの強さには少し欠けますが、金色の装飾を多数施すことで高級感のある神輿に仕上げました。土台側面には、前後には「畜友會」の文字とメンバーの名前を、左右には「平成二十六年度収穫祭」と、また前後左右共に、畜産らしく、牛、豚、鶏の絵を入れました。他にも、ミリ単位で設計・製作した桝組や骨組、去年は無かった屋根の吹返しや将棋、左右の金色の大きな装飾、正面の銀の畜産ロゴや、その横の亀と鶴の色彩やかな彫刻などを施し、完成させることができました。今年度も誰が見ても神輿といえるものを製作したのですが、厚木一般投票では二位、世田谷での審査では惜しくも入賞ならず五位という残念な結果となりました。その理由は、いくつか思い当たる点があるので、その点に関しては来年度改善したいと思います。

来年度の神輿は畜産の伝統を残しつつ、更なるレベルアップを図り、厚木・世田谷、両方において金賞を狙います。



体育祭

体育祭は収穫祭後の行事として、世田谷キャンパスで行われています。今年の体育祭では、昨年まで参加していたオホーツクキャンパスの学科がオホーツクで体育祭を行うことになり、厚木と世田谷の十四学科で行いました。応援合戦、大玉ころがし、玉入れ、綱引き、リレーなど、多くの競技を学科対抗で競い合います。

当日は雨の予報でしたが、清々しい秋晴れとなり、体育祭を予定通り行うことができました。体育祭の一番の見所といえば、各学科対抗応援合戦です。畜産学科では衣装作りを夏休みからはじめ、ダンスの作成、練習をします。ダンスの練習は約一ヶ月間毎日全体練習、個人練習をしました。今年度の畜産学科の体育祭のテーマは「華」でした。畜友会全員で作り上げた「華」は素晴らしいものになったと思っています。

当日は普段の練習で使っている曲のスピードが遅くなってしまうというハプニングがありました。一人ひとり普段の練習成果の何倍もの力を発揮し畜産学科の踊りができました。

今年の体育祭の結果をまとめると応援合戦の部8位、競技の部9位、総合順位が6位という結果になりました。目標である優勝にはとどかず、昨年と同じ6位。二度あることは二度あると言いますが来年の体育祭では、「三度目の正直」今年の結果を糧に、さらなる躍進。優勝を目指します。

ご協力していただいた先生方、OB・OGの皆様、畜産学科の方々、本当にありがとうございました。

櫓

櫓装飾とは、巨大なパネルに各学科でそれぞれのテーマに沿った絵を描いて競い合うものである。

本年度畜産学科の櫓は「鮮やかさ」が他学科に負けない最強の決め手となった。そしてこの鮮やかさは他学科のみではなく、例年の畜産学科櫓にはなかった特徴的なものである。メインの牛の体色を黄色で描くことで目を惹くような色調であったと思う。又、凜として立つ牛の背景には空と月、桜を描くことでより牛を引き立てた。両端の紫くピンク色という独特なグラデーションは印象深さが加わっている。牛をこんなにも印象的、そして独特に描くことができるのは畜産学科のみである。

櫓の活動は夏休みから始まる。作業場所は薄暗い体育館下で、埃っぽく、寒暖差の激しい外での活動になる。しかし、先輩方の差し入れや励ましのお言葉・仲間たちの応援と協力のもと櫓が無事に完成した。

結果は見事に優勝。体育祭後の結果発表の瞬間を私は今も鮮明に覚えている。一斉に振り向いて「おめでとう」と言ってくれた仲間たちの顔や握手、驚きを隠せなかったあの時の気持ちはきつとこの先も覚えていることだろう。優勝は一年生や他部門の人たちの協力あってこそ勝ち取れた勲章である。私たちはみんなへの感謝を忘れずに、来年度の櫓に向けて活動をしていく。

来年も先輩方に堂々と胸を張ってお見せできるような櫓と、今年に負けない櫓の完成を目指して作っていききたい。



研究棟アート

本年度の研究棟アートは、湘北短大側には三年生がデザインしました狛犬の絵と、けやき食堂側には二年生がデザインしました牛、馬、大根の絵を飾らせていただきました。私達装飾部門の活動は夏休みの開始とほぼ同時に始まりました。夏休み中は布と布をつなぐ耳を作る作業から始まり、布を切っては耳と布をミシンで縫い合わせる作業を進めてきました。後期に入ってから、布に絵の下書きをし、布にペンキで絵を描いてきました。そして布を飾るためにロープを通して十月二十六日に完成し、同月二十八日に無事に研究棟に飾ることができました。

昨年度の装飾部門は五人での作業でしたが、本年度は三人と少ない人数での作業となりました。また、布切りの時はとても暑く、ミシンでの作業は肩こりに悩まされ、完成直前のペンキ塗りは大変寒い中での作業となりました。飾られた垂れ幕を見た達成感と安心感、そして収穫祭でたくさんの人に見てもらいたいという期待の気持ちは今でも鮮明に覚えています。

収穫祭一日目は天候には恵まれませんでしたが、破れることなく第十五回収穫祭を終えることができました。本年度も無事に研究棟アートが完成できたのも本当にたくさんの皆様のご協力のおかげだと感謝しております。来年度はどのような研究棟アートになるかはまだ全くわかりませんが本年度同様に素晴らしい作品になると思いますので楽しみにしておいて下さい。

家畜苑

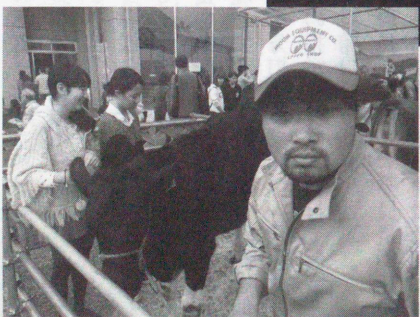
今年の家畜苑は、三年生は五人、二年生は二人という、例年より少ない人数でした。男子六人、女子一人という人数です。少ない人数ではありましたが、収穫祭また家畜苑を大いに盛り上げることができたと思います。収穫祭一日目は雨の影響で入場人数としては少なかったものの、二日目は、多くの人達に来苑していただきました。二年生の人数が少ない中、三年生のリードや畜友会のメンバーの手助けもあり、何とかシーズンを乗り切ることができました。

作業内容としては、家畜苑門、顔パネル、案内看板、背景パネルなどの作成に取り組み、当日はブラッシング体験やヒヨコのふれあい体験、バター作りを行い、今年新しい企画として、牛の鼻紋取りを行いました。慣れない企画で最初はスムーズに出来ませんでしたが、二日目になると、体験者も増え好評だったと思います。

家畜は畜産衛生学研究室、富士農場のご協力でお借りすることができ、今年も無事に開苑することができました。多くの皆様のご協力のおかげで満足のいく家畜苑になりました。メンバー一同感謝しております。

来年は、例年、人気のある企画を残し、子供からお年寄りまで幅広く楽しんでもらえる家畜苑にし、今年も新しい企画もあり苦労した点もあったので、そこを改善しつつ、さらに発展させます。

家畜苑は、楽しむをモットーにメンバー一致団結して来年度も頑張っていきたいと思えます。



【結果発表】

体育祭

総合順位	6位
競技の部	9位
応援合戦の部	8位
樽装飾	1位
神輿	5位

東京農業大学農学部畜産学科畜友会 「畜友会」会則

第一章 総則

- 第一条 本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。
- 第二条 本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。
- 第三条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章 業務

- 第四条 本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。
- (1) 会員相互の親睦
- (2) 講習会、研修会及び研究会発表の開催
- (3) 機関紙「ふじみの」の発行
- (4) 大学行事（収穫祭等）への参加
- (5) その他第三条に付帯する業務

第三章 会員及び役員

- 第五条 本会の会員は次の通りとする。
- (1) 正会員 畜産学科の学生
- (2) 特別会員 畜産学科教職員ならびに大学院生

第六条

(3) 名誉会員 役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者。

本会は次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 執行委員

- 委員長 1名
- 副委員長 2名
- 庶務 2名
- 会計 2名
- 企画・渉外 2名
- 編集 2名
- 監事 4名

第七条

(1) 会長は会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理とする。また1名は総務を他の1名は会計を分担する。

(2) 委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。

副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。

第八条

(1) 本会には連絡委員を置く。

(2) 連絡委員は1、2年次からそれぞれ4名、各研究室から1名選出する。連絡委員は各学年および各研究室の意見を掌握し、連絡

第九条

委員会での意見を反映するとともに執行委員会の決定事項を会員に伝達する。

役員および連絡委員の選出および任期

(1) 会長は畜産学科長がこの任にあたる。副会長および監事は、会長が畜産学科教職員の

中から推薦し、総会において決定する。

(2) 執行委員は、執行委員会の推薦に基づき総会において決定する。但し、委員長は3年

次生、各執行委員の2名の内1名は3年次生、ほかの1名を2年次生より選出するものとする。尚、監事4名の内の2名は畜産

学科教職員がその任にあたる。また、監事はほかの役員を兼任することはできず、その任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

(3) 執行委員に欠員を生じた場合は、執行委員会に諮り補充することができる。

(4) 連絡委員は、各学年（1、2年次）および各研究室（3、4年次）で協議のうえ選出する。また、任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

第四章 総会

第十条

(1) 総会は定期総会とする。

(2) 総会は正会員および特別会員を持って構成され、本会の最高意思決定機関とする。

第十一条 総会開催は七日以前に公示しなければならぬ。

第十二条 (1) 総会は正会員および特別会員の4分の1以上の出席により成立する。

(2) 委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長に一任する。委任状は総会の定足数に含まれるが、正会員および特別会員の5分の1を上限とする。

(3) 委任状の検査は執行委員が行う。

第十三条

定期総会は次の事項を決議する。

1. 前年度の事業報告および収支決算報告
 2. 次年度の役員
 3. 次年度の事業計画および収支予算
 4. 会則の改正
- その他

第十四条

総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指名することができる。

第十五条

議長は書記2名と議事録署名人2名を選出す

る。尚、議事録署名人の内1名は畜産学科教職員とする。

第十六条 総会の議決は出席者の過半数によつて議決され、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十七条 総会出席者により執行委員の不信任を可決することができる。但し、この場合の出席者には委任状は含まない。

第五章 執行委員会および連絡委員会

第十八条 (1) 第六条(3)の執行委員会は本会の最高執行機関たる執行委員会を構成する。

(2) 会長および副会長は必要に応じて執行委員会に出席することが出来る。

第十九条 執行委員会は原則として月一回委員長が招集する。執行委員会は執行委員の3分の2以上により成立する。執行委員会の議長は委員長が勤め、出席者の過半数より可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十条 執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の公務を執行処理する。

第二十一条 執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文章で必ず報告する。

第二十二条 連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認めた場合に開

催することができる。

(1) 連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

(2) 連絡委員会は次の事項を処理する。

1. 執行委員会で決定した事項の伝達。

2. 一、二年次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。

(3) 連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席することが出来る。

第二十三条 本会の事業年度および会計年度は6月1日に始まり、翌年の5月末日までとする。

第六章 会計

第二十四条 本会の運営は会費および寄付金ならびにその他の収入を以つてこれにあてる。但し、第四条の目的を達成のため臨時徴収する場合もある。

第二十五条 (1) 会費は年間二、五〇〇円とし、入学時に一括して一〇、〇〇〇円を納入する。編入・転学科学生は学年に 応じた金額を一括納入する。但し、一度納入した会費は返金しない。しかし、入学取り消しの場合はその限りではない。

(2) 会費は会長および委員長連名で毎年6月に入学対象者に対して請求するものとする。本会の会計は、所定の形式に従つて処理し、

決算はすべて監事の監査を経なければならぬ。

第七章 機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七条 (1) 第四条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。

(2) 編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若干名選出する。

(3) 編集委員会の責任者は編集委員のうち1名が担当する。

(4) 編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任もつて執行する。

第八章 大学行事への参加

第二十八条 (1) 第四条(4)の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。

(2) 設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。尚、内規は別に定める。

(3) 委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章 監査

第二十九条 監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

第三十条 監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。尚、必要と認めた場合は臨時監査することができる。

第十章 付則

第三十一条 本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二条 本会則は、昭和35年6月29日に制定された東京農業大学畜産学科、畜友会、規約を平成元年7月7日に一部改正し、それを元に平成10年2月20日に新たに東京農業大学農学部畜産学科、畜友会、会則を制定し施行する。

本会則は、前会則の一部改正し、平成23年6月23日よりこれを施行する。

畜友会収穫祭内規

第一章 目的

第一条 本内規は東京農業大学農学部畜産学科畜友会会則（以後畜友会会則と称す）第28条によりこれを定める。

第二条 収穫祭は東京農業大学農学部厚木支部収穫祭規定第1条及び第9条に基づく収穫祭に参加する。

第二章 組織および役員

第三条 収穫祭を円滑に運営するため畜産学科収穫祭実行委員会（以後実行委員会と称す）として次の組織を置く（以後6本部と称す）。

1. 統一本部
2. 宣伝隊実行本部
3. 特別企画実行本部
4. 学内装飾実行本部
5. 家畜苑実行本部
6. 体育祭実行本部

第四条 実行委員会に次の役員を置き、会務を処理する。

- 統一本部顧問 若干名
- 統一本部委員長 1名
- 統一本部副委員長 1名
- 統一本部会計 1名

各実行本部顧問 若干名
各実行本部委員長 各1名
各実行本部会計 各1名

第五条 (1)統一本部顧問および各実行本部顧問は畜産学科教職員より畜友会会長がこれを委嘱する。

(2)統一本部委員長は畜友会執行委員、統一本部副委員長、統一本部会計、各実行本部委員長および各実行本部会計は統一本部委員長が畜友会執行委員会の承認を得た後、畜友会会長の了承を得てから委嘱する。

(3)統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。

第六条 (1)統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。

(2)統一本部委員長は各実行本部を統括する。統一本部副委員長は統一本部委員長を補佐すると共に統一本部担当者として各本部の円滑な運営活動を助ける。

(3)各実行本部委員長は各実行本部の運営を担当する。

第七条 実行委員会の機関として6本部会議および各実行本部会議を置く。

(1)6本部会議は、各実行本部顧問、統一本部委員長、統一本部副委員長および統一本部

会計ならびに各実行本部委員長、で構成し、畜産学科収穫祭全体の重要事項を審議する。6本部会議の議長は統一本部委員長がこれを務める。

(2)各実行本部会議は統一本部委員長、統一本部副委員長、各実行本部委員長および各実行本部担当者で構成し、各実行本部の運営活動を審議する。各実行本部会議の議長は各実行本部委員長がこれを務める。

第三章 会計

第八条 収穫祭の会計は特別会計として畜友会収穫祭援助費および農友会厚木支部収穫祭助成金ならびにその他の収入をもってこれにあてる。

第九条 予算は畜友会執行委員会で編成し、畜友会定期総会で承認を得る。

第十条 会計処理は別に定める。「会計処理取扱細則」によって処理する。

第十一条 決算書は統一本部がこれを作成し、畜友会執行委員会に諮り、畜友会監査を受けた後、畜友会定期総会で承認を得る。

第四章 付則

第十二条 本内規の改正は6本部会議で原案を作成し、畜友会執行委員会で承認を得る。

第十三条 本内規は平成15年6月1日よりこれを実施す

る。
本内規は前内規を一部改正し、平成23年6月23日よりこれを施行する。

お疲れだったね

統一本部委員長

3年 福王寺 嶺平

農大に入学し気づけば3年生になり、畜産学科統一本部委員長としてみんなを引っ張る代になりました。自分の代になり最初に思ったのは、自分に引っ張ることが出来るのか？まどめることが出来るのか？人数も少ないし、みんな我が強いし、問題もたくさん起こすし(笑)。正直不安だらけで始まったシーズンでした。

夏休みのはじめ、体育館下のミーティングルームを開け、「また今年もここから始まるんだな」と思いました。そこから各部門が始まっていき、夏休みは神輿、装飾、櫓の土台を作っていました。自分もほぼ毎日いたのでちょこちょこ手伝いをしていました。

夏休みが終わりここから気合いをみんな入れなおし、順調に作業を進めていきました。今年は例年よりも人数が少なく各部門作業の開始を早めていました。早く始めたのがよかつたのか取り合えずの完成からさらに手を加え、例年では考えられないほど完成度を高めていきました。

体育祭の成績こそ櫓のみの金賞とあまりふるわなかったですが、神輿もダンスも衣装も櫓も例年とは全く違うパターンになり、順位も前半までは3位となっていて「今年こそ優勝できちゃうんじゃないかね？」と、さらに盛り上がりました。最終的な結果は総合6位と去年と同じ結果になってしまい、自分の中で最後にして最大の目標であった全部金賞！総合優勝！は果たせませんでした。が、記録よりも記憶に残し、畜産今年はずいぶん！というのを他学

科、先生方へ思わせることが出来たのではないかと思います！まだ見ぬ来年度1年生！問題児の多そうな1年生！みんな仲良し2年生！一番心配したけどなんだかんた頼りに当てました3年生！こんな頼りない委員長についてきてくれて本当にありがとう。そして、入江！本当に変なのはこれかや！だんだん畜産の雰囲気変わってるとか言われるけど、そんな関係ねーからな！お前らの代はお前らが作ってあげれば大丈夫。のほほんとしてるとあつという間におわつちやうから気引き締めていけよ。そしてそして2年生みんな！お前らに俺らがこえられるか？来年楽しみにしてます。

自分たちの代は終わってしまいましたが、統一本部最高でした。最後の最後まで問題だらけ喧嘩ばかりだったけど3年生みんな続けてきてよかつたろ？俺はめちゃくちゃ楽しかったぞ！

最後になりましたが、半澤学科長をはじめとする諸先生方におかれましては今年1年多大なるご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



二階から目薬

特別企画委員長

3年 大矢 遼介

みなさんおはようございます。(おはようございます！)委員長の荷をおろして、やっと仕事から解放された息をついた途端にこの文章をうちなさいと依頼されたところです。号泣憂鬱な雨の日、ヒルナンデスを鑑賞しながらのカタカタパチパチ。

ぼくが畜友会でお仕事をしはじめてからもう3年になります。先輩方もおっしゃっていた通り、いま思えば入った時の事が本当について最近のように感じられます。畜友会において1年生は正式な所属ではなく「お手伝い」という形で活動しているので、ぼくが1年生のときは、「2年生になったら正式に所属できるから来年は気合入れてやろう！」お菓子をポリポリ食いながら、そう思っていました。2年生のときは、「3年生になると憧れの先輩達も引退してついに最高学年だ！来年こそ気合入れていこう！」確変8連分のICカードに心躍らせながらそう思っていました。そして、3年生になって、いよいよ逃げ場を失ってしまいました。

しかも先輩から委員長を任せられることになりました。ここまでを読んで気付いた人はそうとう察しがいひとです。実は；ぼくは集中力が無く、楽天的で、責任感が欠けています。そんな僕が委員長を任せられてなができるんだ、なをすればいいんだ、なんか昨日から関節という関節が全て痛いし、そーいえば家出るときちゃんとコタツの電源消したっけ？そんなことを考えさせられるました。「真つ当に任務をこなすことなんかできやしない！」そう感じたぼくは自分の殻に閉じこめられてしまいました。というより、部屋に閉じこもっていました。可愛いカワウソの赤ちゃんの画像を集めたこの頃からです。病んでいましたね。

しかし、不安の間に飲み込まれ墮落したぼくに手を差し伸べる存在が現れました。唯一の同僚である岸君のことばです。

「大矢の足は裕太さんと比べたらたいして臭くないよ？」

若干は臭いのか。岸、ありがとう。お前のおかげで救われた。岸君のことばを火種にぼくの中の熱いモノが沸いて上がってきた。そう、ぼくは戦うことを決意したので。

それからの僕は人が変わった様に仕事に熱中しました。正直ぼくがみんなになめられていたことわかっています。お前らは楽そうだな、と。そんなイメージを払拭するために奮闘しました。昼夜問わずに仕事の話。授業の時間も仕事の話。モンスターしつつの仕事の話。メリハリゼロでやりぬきました。ぼくがほしいものはただの成功ではありません。イノベーション、革新的な変化なのです。苦難を乗り越えて自分の信じるべき変化を求め突き進むべきの姿は周りからはジャンヌダルクのようなものに見えたとはいえありません。そして苦業を共にしてきた相棒、岸は、とりわけ馬とかそこらへんあたりのもののように見えていたかもわかりません。そのすさまじい努力が実ってかわかりませんが収穫祭当日、お客さんもたくさん入ってステージも盛り上がり、大きな達成感にみまわれました。同時に、まだやりたい。もつとやりたい。引退したくない。欲もでてしまいました。

しかし、引退もルール。黙って身を引きたいとおもいます。

来年度の委員長はやすあき君におねがいました。頼りになるのでなにも心配していません。岸とやすとは家族のようにお互いのことを話せます、安心させてもらっていました。時代の節目の代を、俺、岸、やすの3人で楽しめたこと、一生忘れられません。



充実感でいっぱいだった宣伝隊

宣伝隊長

3年 尾内 晶

一年次から畜友会活動に関わり、二年次からは「宣伝隊」という役職に入りました。正直、一年次に宣伝隊の活動に関わっていませんでした。

主な活動が始まったのは、四月からであり毎週のように会議や本厚木で行われるイベントに参加し、宣伝隊で作った宣伝用ビラを配布したりして、とても大変な毎日でした。しかし私自身、人と会話したり、行事が好きなので、とてもやりがいを感じられました。

先輩の代が終わり、私たちの代になり、宣伝隊学科隊長を私が任せられてから、状況が一変し、先輩が新しく入り、責任感を持って行動する事が不可欠になりました。また、学科隊長であるため、宣伝隊と畜友会を繋ぐ役目がありました。

宣伝隊活動が始まり、毎週のように会議がありました。みんなの意見がまとまらず、一つの議題に対しても意見が食い違う場面があり大変でした。また、昨年は先輩の指示に従って行動していましたが、今年は、店ごとに先輩に配るビラの枚数や場所の配置を決めなければいけないので、事前のチェックが必要でした。さらに、今年は週末だけではなく平日の四限の時間帯にもビラを配りに行きました。ビラを受け取った人からは「週末にもらいそびれたから助かった」などの意見を頂くことが出来ました。そして、十月十一日に今年も厚木一番街にて厚木パレードを行いました。毎年たくさんの人にお越しいただき、盛大に盛り上がり、大いに収穫祭をアピールしました。いよいよ収穫祭当日、例年どおり野菜の無料配布と本年度初の試みである抽選会を行いました。この

企画は、ビラを持ってきて頂いた人だけが抽選出来るというものです。日頃配っていたビラが収穫祭の宣伝になってくるか調査する目的もありました。野菜の無料配布は開始一〇分で野菜を配りきりました。毎年、来場者数が減少している中、野菜無料配布は満員御礼で嬉しい限りです。

そして、抽選会は一日目、雨天のためお客様の安全をふまえて中止したのですが、数人の人に「ここでビラの企画はないの？」など言われせっかく来てもらった人に申し訳なかったです。二日目、野菜の無料配布を終え、いよいよ抽選会です。当たりは一日目がなかったので、景品は二倍用意しました。予定していた時間は一時間でしたが開始一〇分で列を切らないといけないぐらい行列ができ、今までビラを頑張って配布した効果が目に見えて頑張ったかいがありました。

最後に収穫祭が成功出来たのは、たくさんの方々の協力のおかげです。特に参事の先生方ご指導していただきありがとうございます。そして、先輩方も見守って頂きありがとうございます。

そして、何よりも二年間宣伝隊として一緒に活動してきた、みんな！コージ！お疲れ様でした。二年から一年間、厚木パレードの練習で上手く畜産学科統一本部をまとめられない時など、ここには書いていききれないくらい助けてくれてありがとう。そしてノビは来年、僕と同じボジションを一人でやっていくのでとても大変だと思っけど一年間見てきてノビなら出来ると思う。それでも何か思い悩むことがあったらいつでも相談乗るからね！



紹介しよう、神輿部門

神輿隊長

3年 中里 健人

私は中里健人。ジーニョやあやべ等いくつかのあだ名を持ち、A型の左利きであり、シーズンを通して神輿小屋の主と呼ばれるようになる。そんな私は一年生から統一の活動に参加していたが、あつという間に三年生になり、気づけば神輿部門の隊長になっていた。

神輿隊長とは言え、私は仕事が特別好きなわけでもないけれど意欲がないわけではない。しかし私にはかつていい神輿を作る自信があった。なぜなら私には去年先輩方から教わった技術と、「畜産らしい神輿」という名の完成図、そして何よりも愛すべき神輿のメンパーがいたからである。結果私が率いた神輿部門による神輿は、賞という形にはならなかったが、先生方や先輩方、さらに畜産に関係の無い人たちからも「かっこよかった！」という賞賛の声を頂くことができた。

ここからはそんな素晴らしい神輿を作ってきたメンパーを紹介すると共に、個人的な感謝の言葉を述べたいと思う。あえてこの場で、直接は恥ずかしい。

まずは宇都貴弘。あだ名があるとすればウトップ。血液型はA型の右利きである。私と同じバイク好きで、よく次乗るバイクは何にするかと言う話をする。そんなウトップはシーズン中神輿の三年として、私と二人三脚で神輿の制作に取り組んできた。彼がいなければあんなに神輿は間違いなく出来ていなかったと思うと同時に、私自身も彼でなければここまで楽しいシーズンを送る事は出来なかったと思う。彼が同じ神輿部門の三年生で本当に良かったと心からそう思う。

次は敷地生光。あだ名は敷つちゃん、もしくはイクミン。一名だけ敷つちゃんの事をチャッピーと呼ぶ謎の男が居る。誰とは言わないが、血液型はO型の右利き。神輿部門唯一の女性であった

たが、恐らく歴代で最も糸鋸が上手い女性だったのではないだろうか、と個人的に思っている。とてもしっかりした子で敷つちゃんには神輿部門全員一度は助けられたのではないだろうか。来年の隊長はもう一人の二年生だが、敷つちゃんなら新隊長を上手く支え、今年の神輿を超える立役者になると私は確信している。最後に小川直輝。あだ名は無い。血液型はA型の左利きである。彼はシーズン中も常に笑顔であった。しかし歯が出てくるから笑顔になるのか、笑顔になるから歯が出るのか、真相は分からない。そして彼はあの言動からみんなによくアホだと思われる。実際にアホなのかもしれないが、しかし彼ほど神輿を少しでも良くしようと考え、製作に取り組んでいた者はいないと思わせるほど、あらゆる案を出し神輿を良くしてくれた。彼は来年新神輿隊長となる。正直かなり不安ではあるが、今年度見せてくれた神輿に対する情熱と、アホっぽい故に万人から愛されるその人柄、そして何よりも敷つちゃんの絶妙なサポートがあれば、見事な神輿を作ってくれるであろうと思っている。

それではここからは今年度作った神輿について書こう。まずは担ぎ棒。これは去年先輩たちと作ったものを色を変えて使った。この大きな担ぎ棒のおかげで私たちはパレードの時に上へ登り、大いに調子に乗ることが出来た。次にボディの部分である。ボディの部分は、私の作文力の無さからか、文章では説明できない程のあらゆるアイデアが詰まっている。百聞は一見に如かず。写真で感じてください。最後に屋根。個人的に屋根の大きさや角度によって神輿の印象が大きく変わると思っていた。そのため屋根はダンボール形を使い、ありとあらゆる大きさ、角度、形を試し、迫力がある屋根を作った。完成した屋根はとてもバランスがよく気に入っている。

最後に、私は今年年度が楽しみで仕方ない。自分たちのシーズンが始まるあの時よりも、先輩たちが作る神輿、収穫祭、体育祭が楽しみで仕方ない。いつかどんな物が完成するのだろう、そう考えるだけで夜も眠れないほどである。それは盛りすぎか。



畜友会・体育祭部門に入って

体育祭委員長

3年 長田 小菊

わたしは畜友会に友達が誘ってくれたからという安易な理由で入りました。最初はとても軽い気持ちで一年生の夏からお手伝いをさせていただき、先輩がご飯を食べに連れてってくれたり、友達と学校に泊まつたりと本当に楽しい思い出ができました。十月頃から体育祭の練習にも参加しました。そのころから私は「体育祭部門が一番楽しそう。」そう思っていました。

二年生になり、畜産学科統一本部体育祭部門にはいりました。「去年よりもっとも楽しいことがたくさんあるんだろうな。」と思っていました。でも体育祭部門は私が思っていた何倍も何倍も大変で辛い部門でした。応援合戦を中心に先輩の指示通りに毎日毎日、夜遅くまで練習をし、二年生三人で五十人以上の衣装を作ったりと、私の想像していたものとは全く違うシーズンでした。そんな辛いシーズンの中でも一生懸命教えたダンスができるようになったときは凄く嬉しかったです。初めてのシーズンで先輩から教えてもらったことはとても大切なことばかりだったと感じます。

二年の交代式の時、委員長法被を肩にかけられたときは、普通の法被にはない重み、責任感、先輩の思い、いろんなことを感じました。三年生になり委員長になったからには私の好きなように、やりたいように、すべてを出し切りしたいと思いました。そんな私の我儘を全て受け入れてくれた早百合や孝輔や江田や明日佳には本当に感謝しています。今年のシーズンは辛いことや悲しいこと以上に楽しいことがたくさんありました。今年の応援合戦のダンスは今までのダンスとは一味違うものに仕上げました。曲のテン

ポが速く皆が踊れるか心配でした。でも筋肉痛になりながらみんな一生懸命踊ってくれました。私は本当にみんなのやる気に感謝したいです。皆だかこそ踊れた応援合戦だと思っています。

今回の第123回体育祭では、総合6位、競技の部9位、パネル装飾の部1位、応援合戦の部8位という結果をいただきました。体育祭部門としては、一番力を入れていた応援合戦であまりいい評価が得られなくて非常に悔しい思いをしました。しかし、全力でやったことには間違いはないので悔いはありません。例えば結果はついてこなくてもみんなの支えや協力があったからこそ私は体育祭委員長をやりきることが出来たのだと思っています。時には笑ったり、時には怒ったりしながらも練習で一生懸命最後まで投げ出さずに踊ってくれたみんなのことを思い出すと、私はとてもいい体験をさせてもらったと思います。

私が大学生生活でこれほどの感動を味わうことは考えていませんでした。畜友会に入ってから、畜友会に入ってから出会ってなかったら、こんな辛いこと楽しいこと悲しいこと悔しいことを体験できなかったと思います。

畜友会に入り大学生生活が変わりました。最高の思い出をくれたみんなに本当に感謝しています。本当にありがとうございます。



三年間の締めくくり

槽装飾委員長

3年 茂田井 瑞生

去年の活動の終わり直後から、「来年は牛をメインにしよう。」と決めていました。なぜなら、去年の槽である鶏の絵が最高の出来で、去年を超える作品を作れる自信があったからです。「牛を描こう」と決めた去年の活動終わりの十二月頃から、背景には何を描くか、全体的な色は何色にするか、メインの牛はどんな位置に、どんなポーズで描くかを相方のゆいといと二人でずつとずつと考えてきました。去年より二人も人数が少ない四人での活動であり、私とゆいの研究室が忙しくてとにかく時間が限られていました。ですので、最初からしっかりと予定を立てて一つひとつの絵の期限を設けながら進めていきました。今でも本当によく完成が間に合ったな、と思ってしまう。また、がむしゃらに下絵が考えるのではなく、まず最初に去年の作品を見比べ、色鮮やかでインパクトのある作品の方が優勝できるのではないかと考えそれを重視して下絵を考えたり色の相談をしたりと勝つための作戦を練っていきました。当日、私たちの槽が一位を取ったとき、正直作戦勝ちしたなと思いました。

作戦が大きき成果に繋がったのはもちろんですが、今回の一位という結果は沢山の人に支えられたからこそ、受賞できたと思っています。金張りを手伝ってくれた二年生、寒い中ありがとう。台風のとときに板を運ぶのを手伝ってくれた人、女しかない槽にとつとでも助かりました。ありがとう。きれいに槽を設置してくれた人、おかげでどの学科よりも綺麗に絵が映えました。今まで一番綺麗な設置だった。ありがとう。寂しく作業していた夜明けにはみがきしながら来てくれたさおりん、ありがとう。たく

さん迷惑をかけた体育祭とこぎく、ありがとう。今年は金張りだけでなく桜まで描いてくれた槽男ことおーじ、あなたのおかげで槽が完成しました。ありがとう。そしていつも忙しいなか相談のつてくれた先輩方、本当に今年は困ったことばかりで夜遅くに色々な相談に乗っていただき、心の支えになってくれました。大好きです。ありがとう。こんな先輩に付いてきてくれた後輩二人、二人がいてよかった！初めての槽で辛かったこともあったらうけどこの経験を基に来年も頑張つてね。ありがとう。そして一番感謝を伝えたい相手のゆい、ゆいがいたからこの二年間頑張つてこれられました。辛いことも多かったけどそれも分かち合えたおかげでここまで耐えてこれました。いい作品が出来ました。ゆいの技術がなければ優勝できなかった。最後に二人で表彰台に立つことができて最高の思い出ができて本当に良かった！最高の相方です。いっぱい数えきれないほどありがとう！！

今回の受賞はこんなにもたくさん感謝に支えられています。色々苦労は絶えなかったけど最後に最高の思い出ができました。皆、ありがとう！！



僕らの研究棟アート

装飾委員長

3年 鳥越 雄斗

8月、去年よりも2週間ほど早く僕らの作業は始まりました。最初は、布同士を繋ぎ合わせる耳を2千本作ることから始まり、4メートルほどある布を15メートルずつ切り、その布に耳をミシンで縫い付ける作業をしていました。

9月、僕らはまだミシンで耳を縫い合わせる作業ばかりをしていました。肩に重りを乗せられているかのような感覚に襲われ、もうミシンと顔を合わせるのも嫌なぐらい僕らはミシンと寄り添っていました。

10月、繋ぎ合わせた大きな布に下書きをし、その下書きに色を塗る作業をしていました。この頃には、外は肌寒くなっており、外での色を塗る作業はかなり苦痛でした。それでも3人楽しく笑いながら作業をしていました。下旬には、色も塗り終わり僕らは研究棟に絵を掲げることができました。改めて僕らが書いた絵の大きさを知り、達成感でいっぱいでした。

11月、収穫祭、体育祭本番を迎えました。最後まで僕らの絵は破れずに収穫祭、体育祭を見届けてくれました。体育祭が終わわり、僕らは畜産統一本部を引退しました。

今年、「狛犬」の絵を掲げました。この絵は、僕ら3年生が何度も話し合いながら決めた絵で、僕らにとって思い入れのある絵です。

僕らの研究棟アートは、順位や賞を頂くことはありませんが、その代わり大勢の方に見てもらうことができます。それは、本当に誇らしいことであり、僕らの絵を見て収穫祭に行こうって思った方がいらつしやるのなら嬉しいです。

家畜苑

家畜苑苑長

3年 大橋 右

今年の家畜苑は三年生五名、二年生二名の計七名でスタートしました。昨年よりも人数が少なかったため委員長になった時は不安でいっぱいでした。人数が少ないとはいえ他の部門よりも多いのでまとめるのに苦労しましたが、人数が多い分明るく元気にそして楽しく作業を進めることができました。収穫祭初日は雨が降ってしまい思うようにいきませんでした。二日目は天気にも恵まれてなんとか成功に終わることができたと思います。

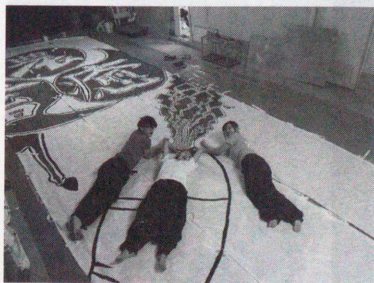
今年には人数が少ないこともあり昨年よりも早い時期から作業に取り掛かりました。家畜を入れる小屋の単管を組む作業から始め、小屋の後ろにかざる絵、記念撮影用の顔パネル、家畜苑の入り口に設置する門などを作成しました。早く始めたこともありついでに付けてしまうこともありましたが無事に作り終えることが出来、先輩方から今年も成功だねと言われた時は大変だったけど頑張ったよかっただけだなと思いました。

家畜衛生学研究室、畜産物利用学研究室、富士農場の協力でも今年も家畜苑を運営することが出来ました。今年もバター作り体験、ウシのブラッシング、ヒヨコふれあいコーナー、記念撮影コーナーと昨年と同じ企画に加えてウシの鼻紋取りを新しく企画しました。毎年好評のバター作り体験は初日が雨にもかかわらずたくさんの方々に来ていただけました。バター作り体験に関しては昨年と同様に体育館下の卓球場を使用することが出来たのでスムーズに活動することが出来ました。他の企画は屋外だったため初日こそ来客数は少なかったのですが、二日目は休み暇がないほどの大盛況でした。新しく企画したウシの鼻紋取りは初めてというこ

今年も、3年生2人、2年生1人という少ない人数で作業をしていきました。それでも多くの方々を支えられ、手伝っていたので僕らは無事に絵を掲げることができました。下書きとロープ通しを手伝ってくれた宣伝隊部門と統一部門の方々。手伝いに来てくれた1年生。ご指摘、ご支援をしてくださった先生方。ご迷惑をたくさんおかけしました総務部の方々。僕らの研究棟アートを飾ってくださった業者の方。他学科、研究室の方々。辛いつきに支えてくださったOB・OGの方々。そして、一緒に頑張った畜産統一本部のみんな。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

そして、一番感謝しているのは同じ装飾部門として頑張ってくれた2人。みくちゃん！2年間本当にありがとうございました。今年はずいぶんケンカもしたし、たくさん頼りにさせてもらいました。いつも自分を支えてくれて、一番装飾の作業に一生懸命に取り組んでくれたおかげで最高の作品ができました。弱音も一切吐かないで作業してくれてありがとう。みはるんば！初めての作業お疲れ様でした。装飾でよかったって言うてくれてありがとう。来年は任せたい！でも、安心してます。もう立派な委員長です。今年ダメだったこととか、改善したいなと思うことは改善して、来年、収穫祭の主役になるような絵が掲げられるのを楽しみにしています。

僕は、本当に頼りない委員長だったと思います。それでもついてきてくれた2人に支えられ、僕ら装飾部門も、収穫祭も大成功で幕を閉じることができたと思います。来年、小野美晴が委員長となった新しい装飾部門、研究棟アートを乗しみにしたいと思います。



もあり多くの人に体験してもらおうことが出来なかったのは残念でしたが、新しい事に挑戦できたということで新たな一歩を踏み出したのではないかと思います。またお年寄りから小さな子供まで幅広い年齢層の方々に来ていただき家畜苑のテーマでもあった家畜の意義と大切さも知っていただけたことが一番の収穫でした。畜産学科統一本部の本部開きのとき、順位はつかないが収穫祭当日が一番充実感のある部門にしたいと話しましたが当日はそんなことを感じている暇もなくあっという間に終わってしまいました。ですが、収穫祭が終わってから色々振り返ってみると収穫祭までの約三ヶ月はとても充実していたなと思います。この充実感を感じることが出来たのは家畜苑七人の努力の成果だと思えます。昨年よりも今年、今年よりも来年と家畜苑が少しずつ良くなっていく事を切に願うとともに来年度の家畜苑の苑長を中心とする家畜苑メンバーの活躍を期待しています。



編集後記

今年も、ふじみの第51号を無事発刊することができました。今、こうして皆様をご覧になっていることを、心よりうれしく思います。

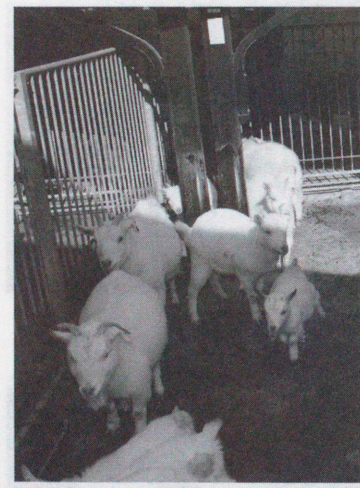
第15回収穫祭は、多くの来場者を迎え、毎年恒例の野菜無料配布や家畜苑も、大盛況に終わりました。開催者も、来場者も、皆充実した時間を共有できたのではないのでしょうか。

また、第123回体育祭では、櫓装飾において、畜産学科が堂々の1位を受賞しました。今後も総合優勝を目指し、尽力して頂きたいと思えます。皆様のご活躍を祈っています。

この『ふじみの第51号』が、今後の畜産学科の更なる発展を担うものになれば幸いです。

最後になりましたが、本誌を発刊するにあたり、お忙しい中ご寄稿くださった先生方、学生の皆さん、ならびに会員の方々に深く御礼申し上げます。

編集委員長 3年 城 詰 完 奈



平成27年3月20日 発行
 “ふじみの”第51号
 発行所 神奈川県厚木市船子1737
 東京農業大学農学部畜産学科畜友会
 電話 046(270)6220(総務課)
 印刷所 東京都荒川区西尾久7-12-16
 創文印刷工業株式会社
 電話 03(3893)0111

